

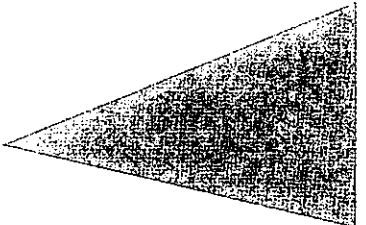


在日フィリピン人実態調査事業報告書

～ これからの支援に向けて ～

平成23年(2011年)2月

財団法人 滋賀県国際協会



在日フィリピン人実態調査事業報告書

～これからの支援に向けて～

財団法人 滋賀県国際協会



はじめに

滋賀県の外国人登録者26,471人のうち約7%の1,792人（平成22年12月末現在）がフィリピン人であり、県内の登録者では4番目に多い外国人となっています。県内には多くの製造業を中心とした工場が点在することから、近畿圏では唯一南米出身者が多く住む県という特色を持ち、これまで外国人支援や多文化共生の取り組みを実施する際には南米出身者をその対象の中心としていました。

しかし、近年では、教育現場においても中国語とタガログ語の通訳のニーズが増えています。また、滋賀県在住のフィリピン人からの相談に近隣府県の外国人相談対応窓口で多く対応いただいていることも報告されており、南米出身者のみでなく、フィリピン人へのサポートを充実させる必要性を感じるようになってきました。

当協会では、今回の調査結果を効果的な情報提供やフィリピン人へのサポートの充実に生かしていきたいと考えています。また、行政や県内の関連機関においても参考にいただき、多文化共生の地域づくりがますます推進されることを期待しています。

最後になりましたが、フィリピン人はクリスチャンが多いことから、今回の調査では県内のカトリック教会及びバプテスト教会に多大なご協力をいただきました。瀧野神父様、ジャクソン神父様、グンテル神父様、アルセ神父様、シスターLu様をはじめとする教会の関係者の皆様、そしてフィリピン人の各地域のリーダーの方々に感謝を申し上げます。また、龍谷大学国際文化学部国際文化学科准教授 カルロス マリア レイナルース氏、群馬大学教育学部助教 松尾隆司氏には、この調査の準備段階から参考となる資料の提供や温かいアドバイスをいただき、ありがとうございました。調査員としてご協力いただきました彦根市国際協会の馬場様、調査にかけつけてくださった平野様、ありがとうございました。そして、通訳や翻訳をはじめこの調査にご尽力いただきました橘田ソコロ様、山本グレイス様に心より感謝を申し上げます。

平成23年（2011年）2月

財団法人 滋賀県国際協会



目次

第1章 調査の概要

- | | | | |
|--------------|---|----------------|---|
| (1) 調査の目的 | 2 | (3) 回収結果 | 3 |
| (2) 調査の実施方法等 | 2 | (4) 集計・分析にあたって | 3 |

第2章 調査結果

- | | | | |
|-------------------|----|---------------------|----|
| 1 調査対象者の属性 | 6 | (2) 日本語を話せるか | 24 |
| (1) 性別 | 6 | (3) 日本語が読めるか | 25 |
| (2) 年齢 | 6 | (4) 日本人の友だちがいるか | 26 |
| (3) 居住市町・地域 | 7 | 3 就労と今後 | 27 |
| (4) 国籍 | 8 | (1) 就労状況 | 27 |
| (5) 出身地域 | 8 | (2) 就労形態 | 28 |
| (6) 最初の来日時期 | 9 | (3) 仕事の内容 | 29 |
| (7) 日本の在留期間 | 10 | (4) 10月の収入 | 30 |
| (8) 滋賀県の在留期間 | 11 | (5) 将来の予定 | 32 |
| (9) 在留資格 | 12 | 4 情報 | 33 |
| (10) 最終学歴 | 14 | (1) 情報入手媒体 | 33 |
| (11) 配偶者の有無 | 15 | (2) 必要な情報 | 34 |
| (12) 配偶者の国籍 | 16 | (3) 「みみタロウ」の認知度 | 36 |
| (13) 同居人数 | 17 | (4) 「みみタロウ」を送ってほしいか | 37 |
| (14) 家族構成 | 19 | 5 記述式回答 | 38 |
| (15) 同居している子どもの人数 | 20 | (1) 楽しみ | 38 |
| (16) 別居している子ども | 21 | (2) 困っていること | 39 |
| 2 言葉・交流 | 23 | (3) 意見・要望 | 40 |
| (1) 日常使用している言葉 | 23 | | |

第3章 まとめと考察

- | | | | |
|--------------------|----|-----------------------|----|
| 1 県内の外国人の状況 | 44 | (3) 外国人登録者数の比率が高い県内市町 | 46 |
| (1) 滋賀県における外国人登録者数 | 44 | (4) フィリピン人登録者数が多い県内市町 | 46 |
| (2) フィリピン人登録者数の推移 | 45 | | |

2 調査結果から	47	3 おわりに	55
(1) 調査対象者の属性	47	(1) フィリピン人の出稼ぎ労働者	55
(2) 言葉・交流	48	(2) 言葉の問題	55
(3) 就労と今後	51	(3) これからの支援に向けて	56
(4) 情報	54		

第4章 調査票

1 日本語	60	2 タガログ語	64
-------	----	---------	----

第1章

調査の概要

(1) 調査の目的

滋賀県内での多文化共生に関する事業や外国人支援の事業等は大変充実してきていますが、それらの多くは外国人登録の過半数を占める南米出身者を対象としたものです。また、多言語の情報も多数ありますが、南米以外の外国人出身者にはどこまで届き、実際に活用されているかなどの実態は把握できていません。

この調査は、県内でも多数在住するフィリピン人の生活実態や地域社会へのニーズを把握し、南米国籍出身者とは異なった情報提供方法や必要な情報のニーズや支援策を検討するための資料とすることを目的とします。

(2) 調査の実施方法等

① 調査実施主体

財団法人 滋賀県国際協会

② 調査対象者

滋賀県内に居住するフィリピン出身の人

③ 調査実施期間

平成22年11月～12月

④ 調査方法

調査員が県内の教会や集会所へ出向いて、フィリピン人参加者に調査票を渡し記入していただく、あるいは後日郵送していただくという方法で行いました。

⑤ 調査内容

○調査対象者の属性

〔 フィリピンの出身地域 最初の来日時期 来日してからの期間 滋賀県に来てからの期間 在留資格 最終学歴 配偶者の有無と配偶者の国籍 同居している人 同居していない子ども 〕

なお、年齢・性別・住所・名前・国籍は、調査票の末尾に記入していただきました。

○言葉・交流

〔 日常使用している言葉 日本語の会話・読み 日本人の友だちの有無 〕

○就労と今後

〔 就労状況 就労形態 仕事の内容 1か月間の収入 将来の予定 〕

○情報

〔 情報収集 必要な情報 外国人向け情報紙「みみタロウ」の知名度等 〕

○記述式回答

(生活での楽しみ 困っていること 意見・要望)

(3) 回収結果

月 日	場 所	回収数
11月7日	カトリック彦根教会 カトリック長浜教会	71
11月27日	大津バプテスト教会	10
11月28日	カトリック草津教会	18
11月～12月	大津市・東近江市・甲賀市等の各集会所	42
	合 計	141

(4) 集計・分析にあたって

○回答の比率は、その設問の回答数を基数（n）として算出しました。したがって、複数回答の設問については、すべての比率を合計すると100%を超えます。

○回答率（%）は、小数点第2位以下を四捨五入しました。したがって、単数回答の場合であっても比率の合計が100%にならない場合があります。

○第3章の比率（%）は、無回答を除いています。

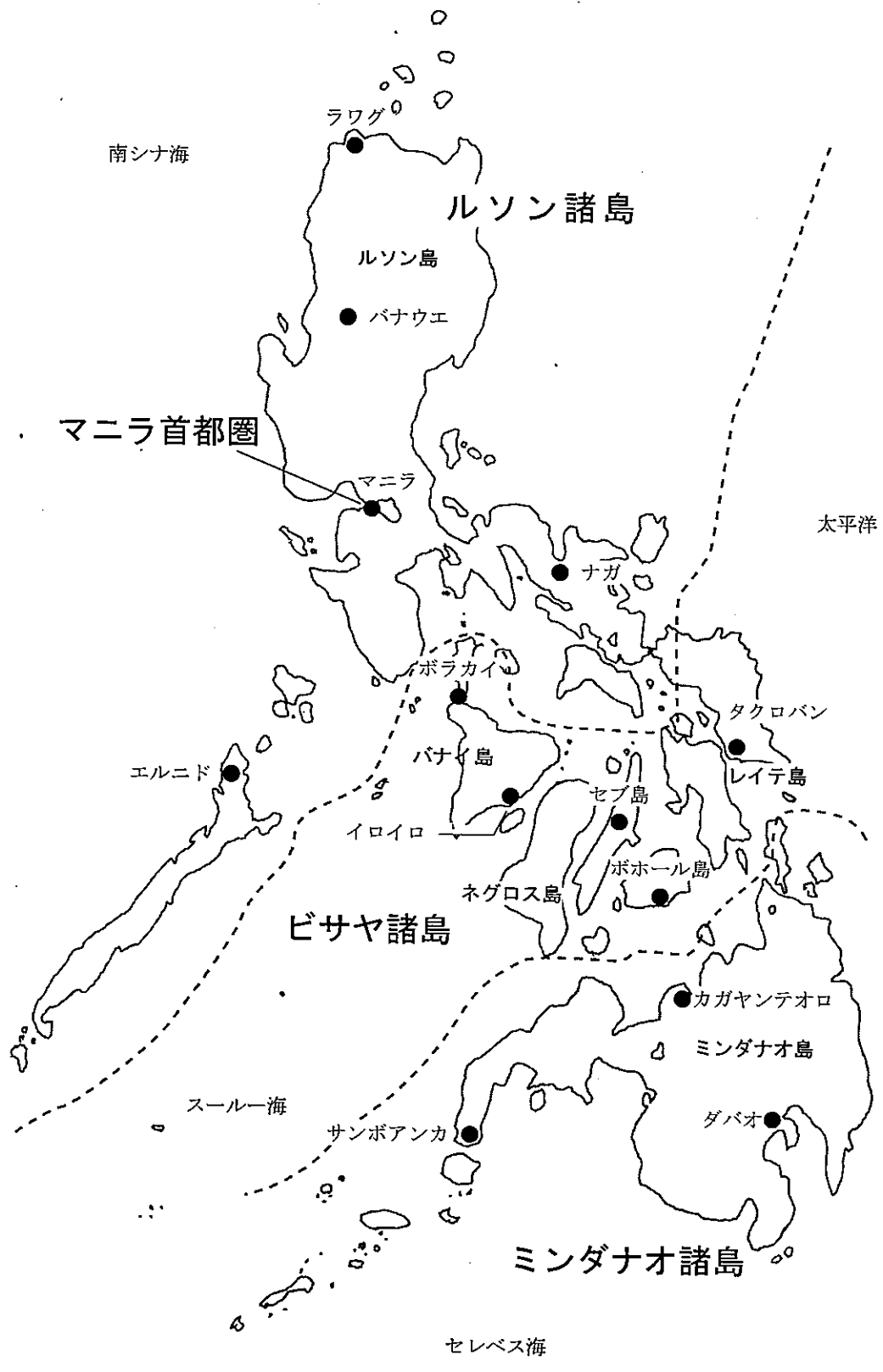
○滋賀県は、県内の市町を次の7地域に分けています。第2章においては、地域較差をみるために、この地域別に分けて分析しています。

地 域	市 町
大 津	大津市
南 部	草津市 守山市 栗東市 野洲市
甲 賀	甲賀市 湖南市
東近江	東近江市 近江八幡市 日野町 竜王町
湖 東	彦根市 愛荘町 豊郷町 甲良町 多賀町
湖 北	米原市 長浜市
高 島	高島市

(注) 今回の調査においては、高島地域の回答者はいない。

○調査対象者のフィリピンの出身地域は、「マニラ首都圏」「ルソン諸島」「ビサヤ諸島」「ミンダナオ諸島」に分けました。「マニラ首都圏」はルソン島にありますが、都市部と地方のニーズ等をみるため、二つに分けました。次頁にフィリピンの地図を掲載しましたので、参照してください。

図1-1 フィリピンでの出身地域



第2章

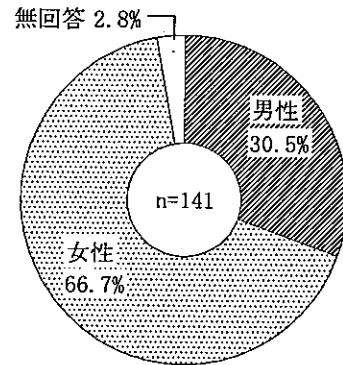
調査結果

1 調査対象者の属性

(1) 性別

性別は、「男性」が30.5%、「女性」が66.7%と、「女性」の比率が高くなっています。これは、16頁の図2-13にあるように、「女性」に日本人の配偶者が多いことも一因と考えられます。

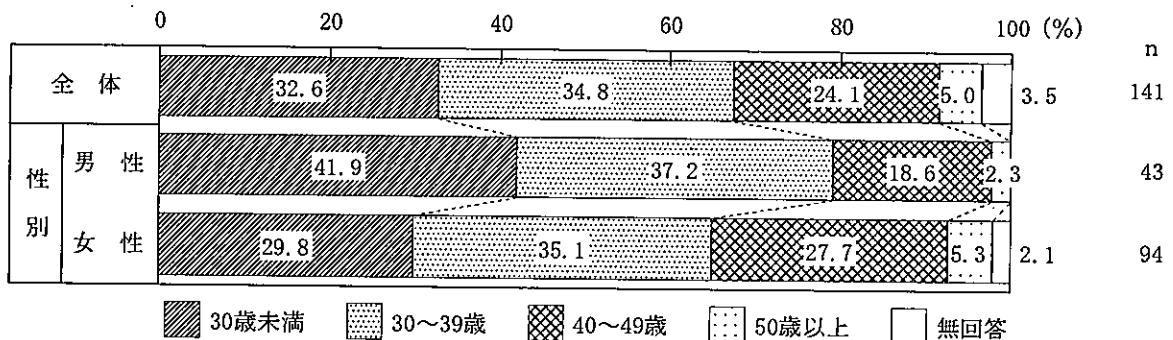
図2-1 性別



(2) 年齢

年齢は、「30～39歳」の34.8%が最も高く、次いで「30歳未満」(32.6%)、「40～49歳」(24.1%)などとなっています。年齢を性別にみると、男性は「30歳未満」(41.9%)が最も高く、女性は「30～39歳」(35.1%)が最も高くなっています。平均年齢は、男性が32.1歳、女性が35.5歳です。なお、本調査の対象者は16歳以上です。

図2-2 年齢



(3) 居住市町・地域

居住市町は、「彦根市」(47人)が3分の1を占め、次いで「甲賀市」および「東近江市」(ともに19人)、「大津市」(14人)、「草津市」(13人)などとなっています(図2-3)。

これを地域別にみたのが図2-4です。

図2-3 居住市町

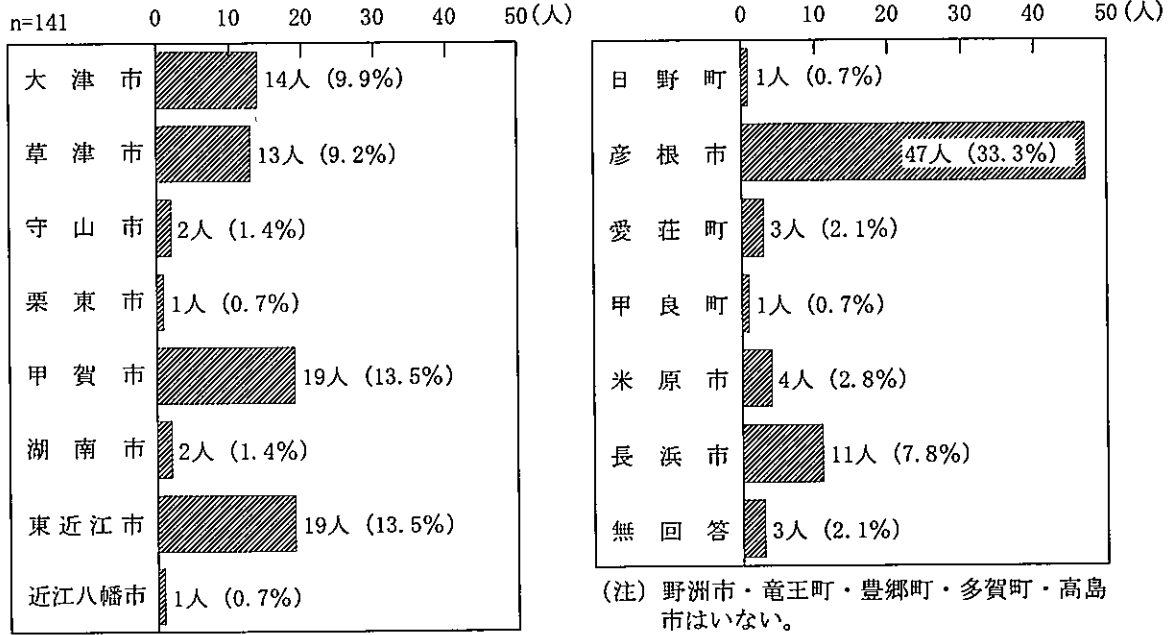
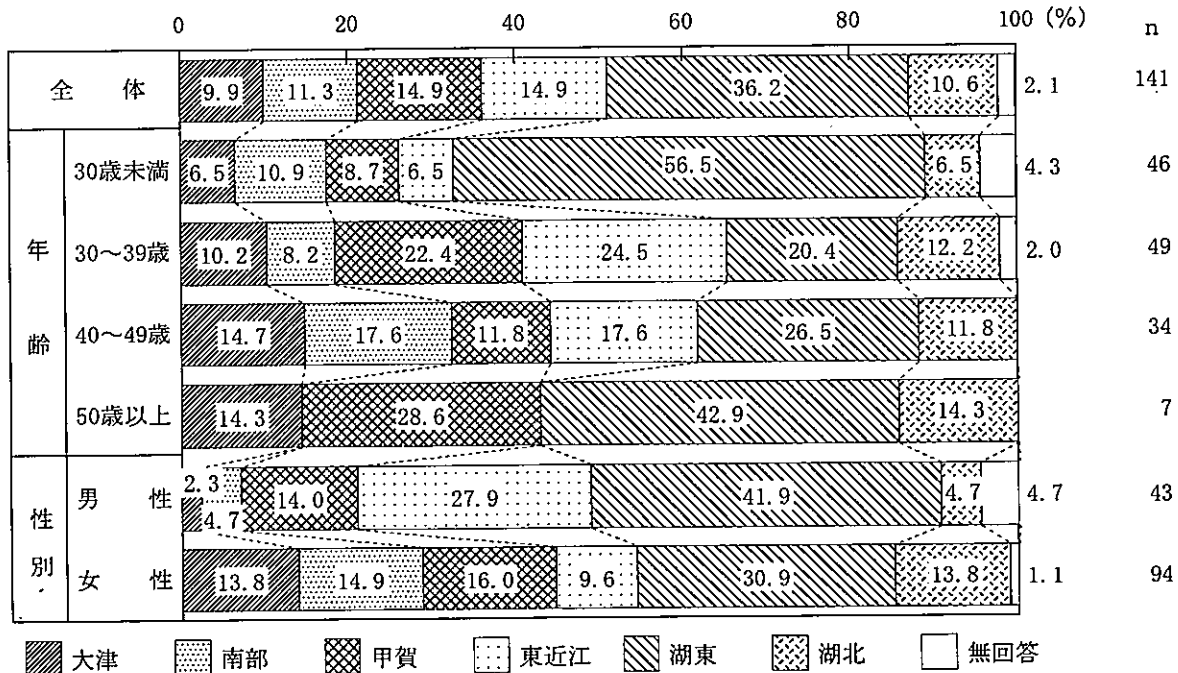


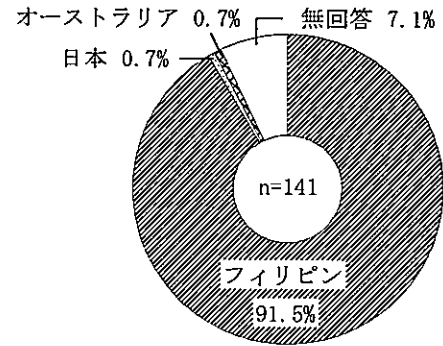
図2-4 居住地域



(4) 国籍

国籍は、「フィリピン」が91.5% (129人) を占め、「日本」および「オーストラリア」がそれぞれ0.7% (1人) です。

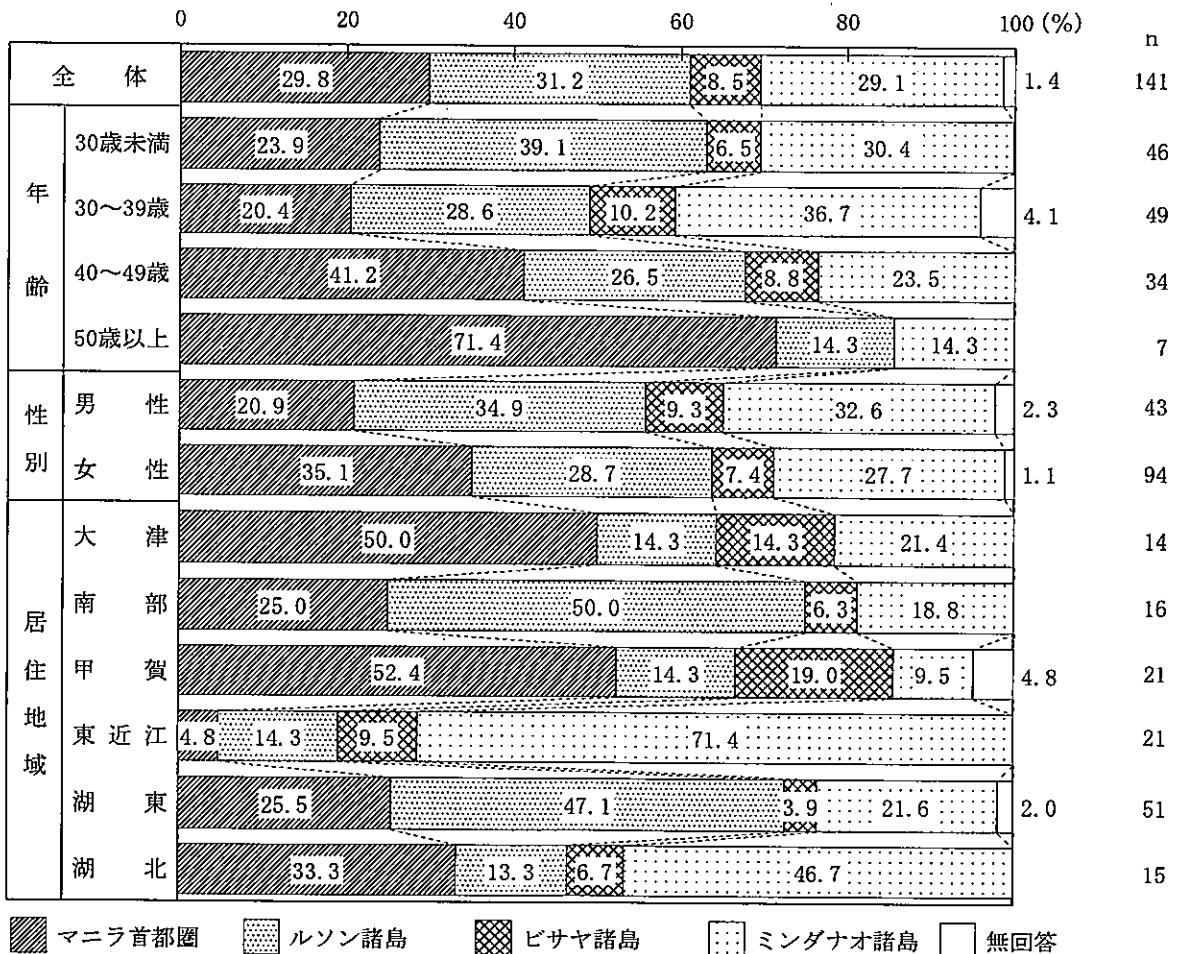
図2-5 国籍



(5) 出身地域

出身地域は、「ルソン諸島」(31.2%)、「マニラ首都圏」(29.8%)、「ミンダナオ諸島」(29.1%) などです。居住地域別にみると、「マニラ首都圏」は大津・甲賀、「ルソン諸島」は南部・湖東、「ミンダナオ諸島」は東近江・湖北が、それぞれ高くなっています。

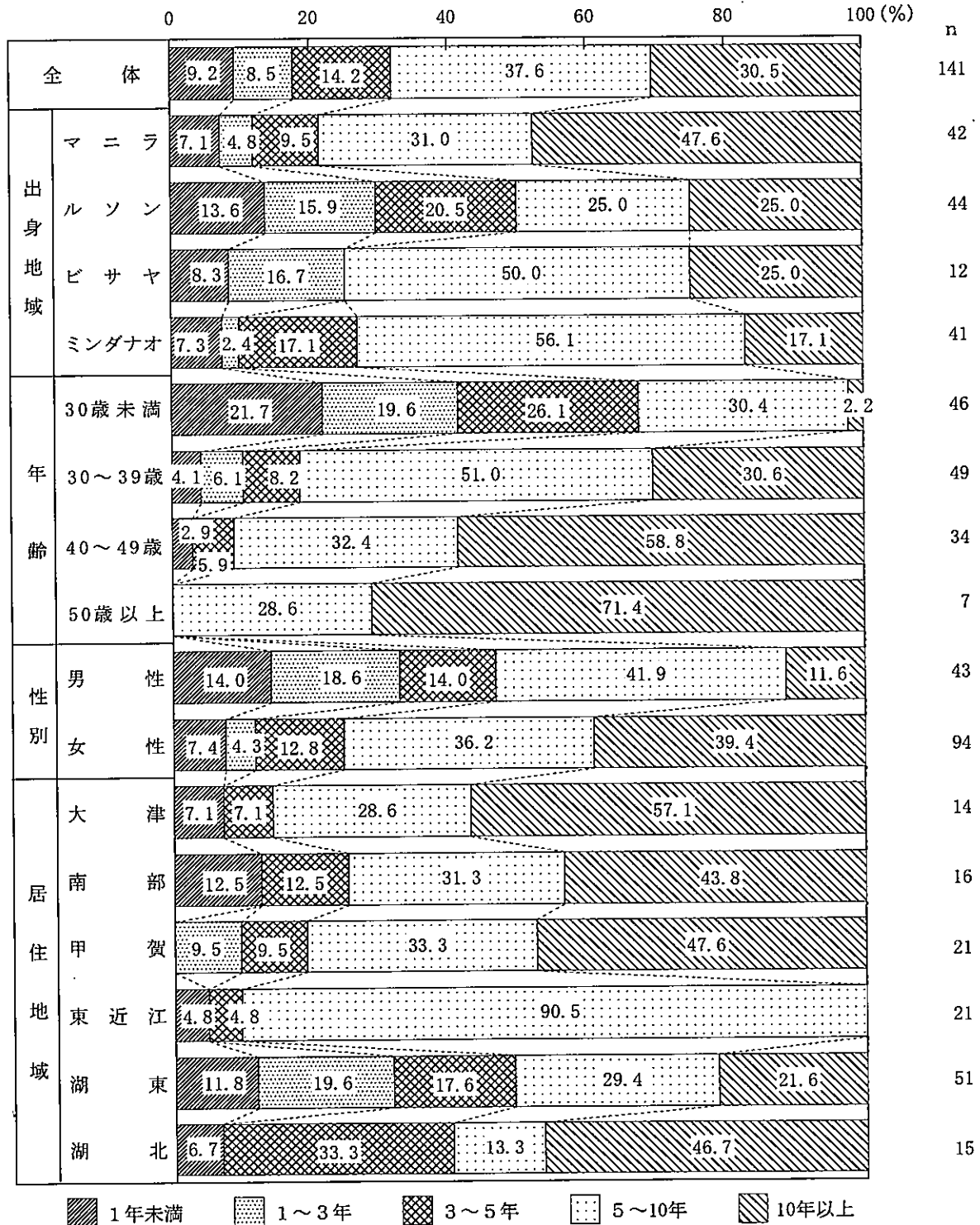
図2-6 出身地域



(6) 最初の来日時期

「最初に日本に来たのはいつですか?」という設問に対しては、「5～10年前」(37.6%)が最も高く、次いで「10年以上前」(30.5%)、「3～5年前」(14.2%)などとなっています。「10年以上前」が高いのは、出身地域別ではマニラ首都圏、年齢別では高年齢層、性別では女性、居住地別では大津・甲賀・湖北です。

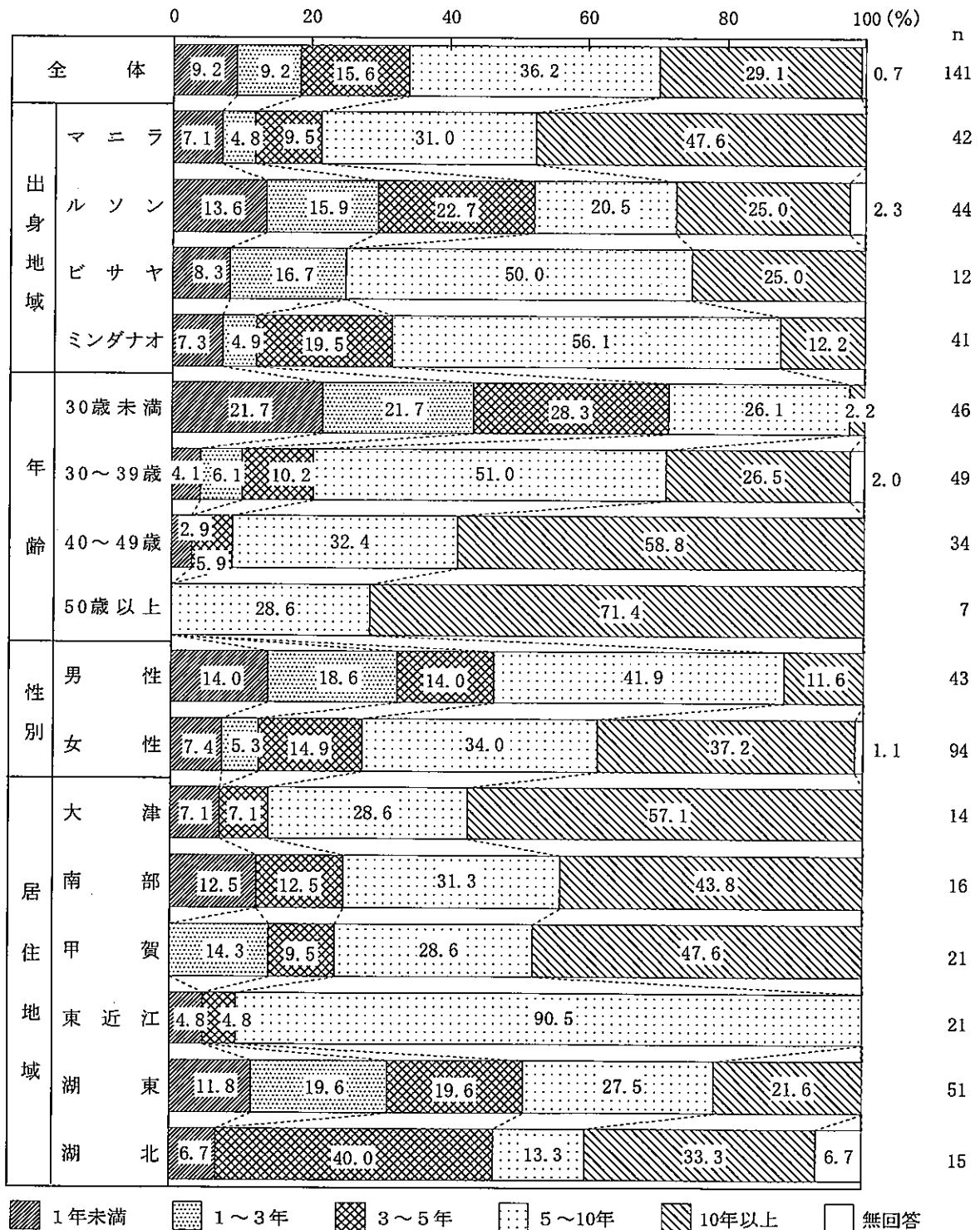
図2-7 最初の来日時期



(7) 日本の在留期間

日本の在留期間は、「5～10年前」(36.2%)が最も高く、次いで「10年以上」(29.1%)、「3～5年前」(15.6%)などとなっています。全体的に、前項の来日時期より、わずかながら短くなっているものの同様の傾向を示しています。このことは、来日してから継続して日本に住み続けている人が多いことを表しています。

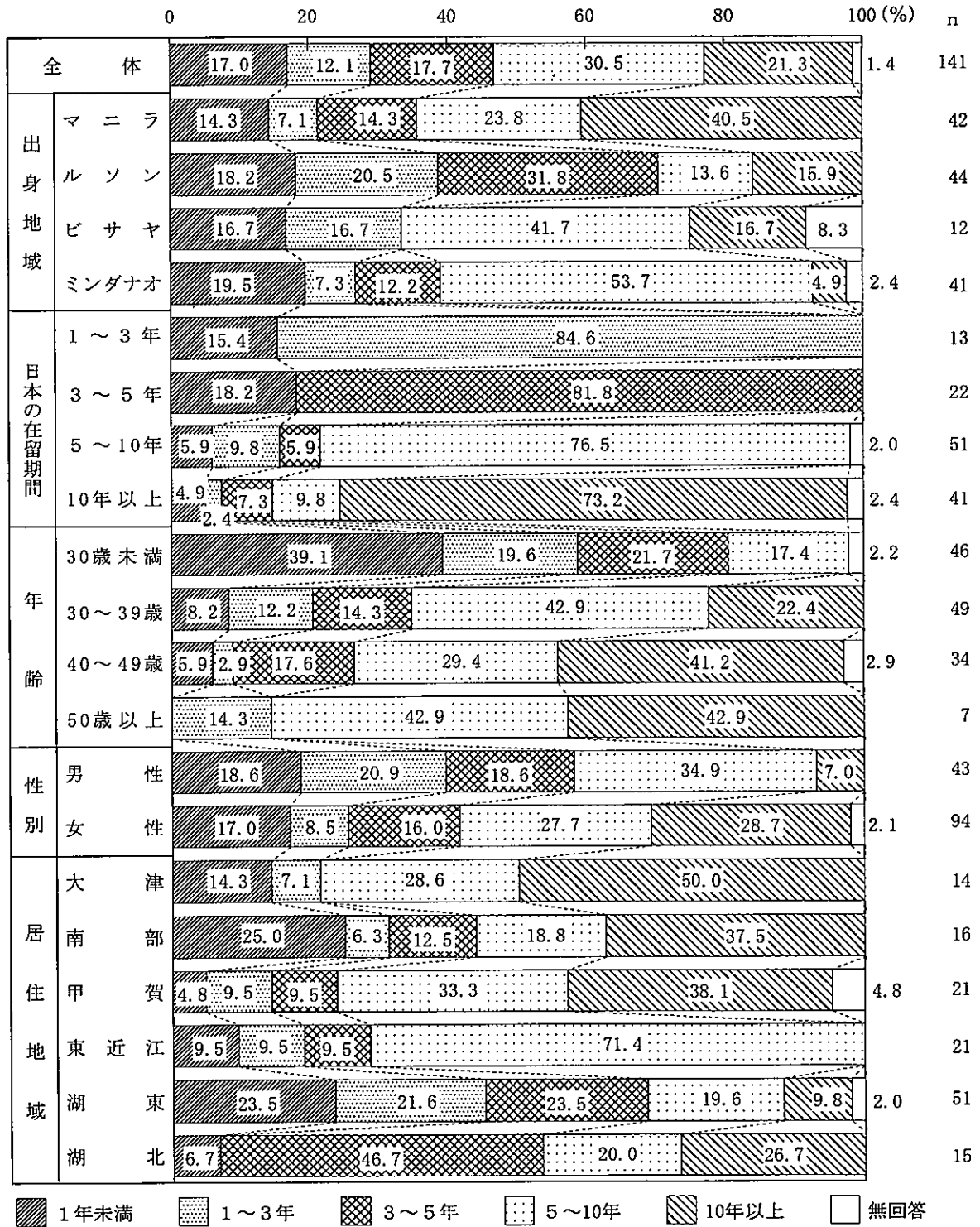
図2-8 日本の在留期間



(8) 滋賀県の在留期間

「滋賀県に住み始めたのはいつからですか?」という設問に対しては、「5~10年前」(30.5%)、「10年以上」(21.3%)、「3~5年前」(17.7%)の順になっています。日本の在留期間別にみると、70%以上が最初から滋賀県に住み続けたと推測されます。

図2-9 滋賀県の在留期間

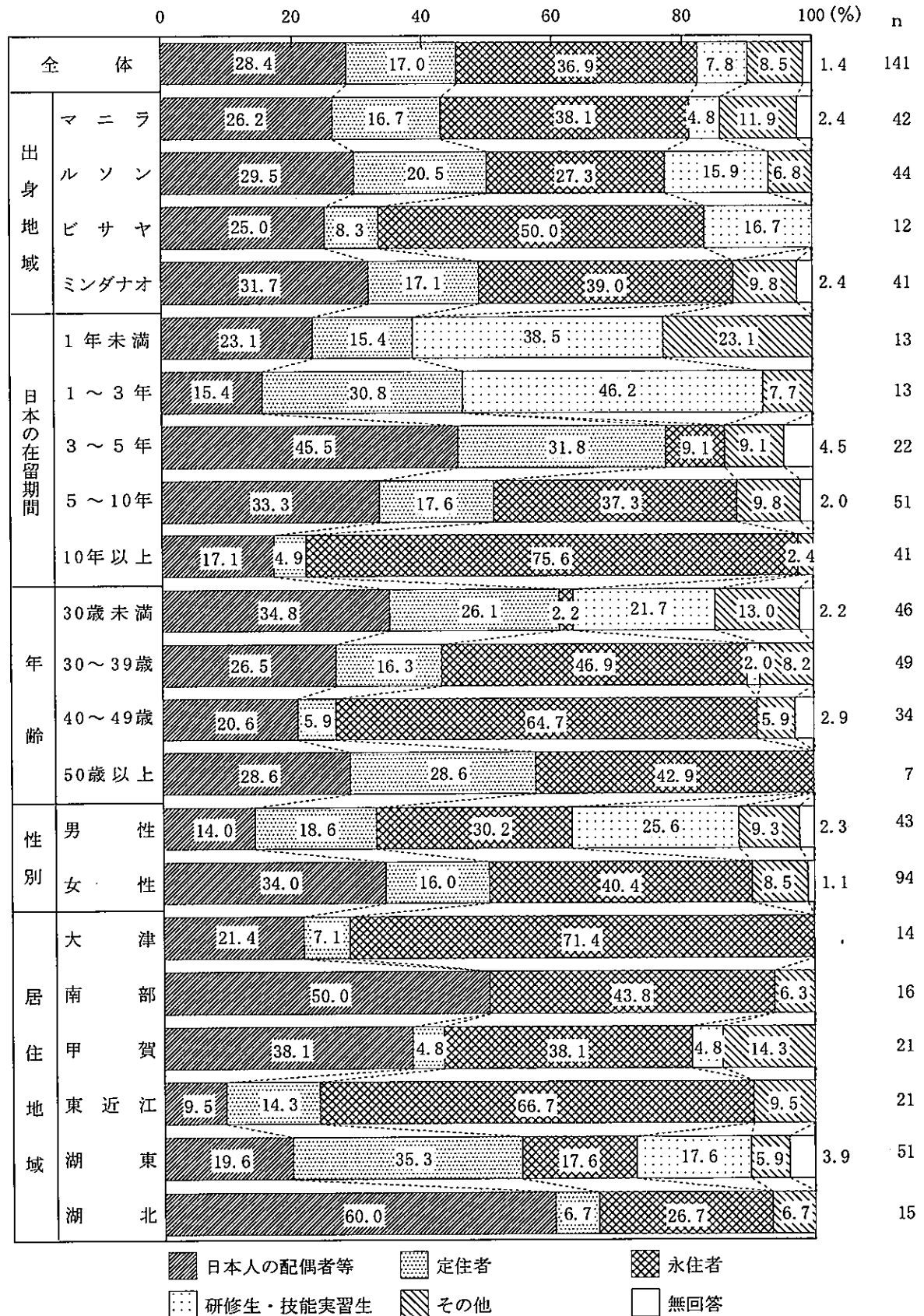


(9) 在留資格

在留資格は、「永住者」(36.9%)が最も高く、次いで「日本人の配偶者等」(28.4%)、「定住者」(17.0%)などとなっています。「永住者」の比率が高いのは、出身地域別のビサヤ諸島、日本の在留期間別の10年以上、年齢別の40～49歳、性別の女性、居住地域別の大津・東近江です。一方、「日本人の配偶者等」の比率が高いのは、日本の在留期間別の3～5年、年齢別の30歳未満、性別の女性、居住地域別の湖北・南部です。

「その他」として、「日本人の子孫」(2件)、「観光ビザ」(2件)、「長期(long term)」(2件)、「留学生」「仕事」「永住者の配偶者」「長期滞在者」「3年ビザ」「専門職」という記入がありました。

図2-10 在留資格



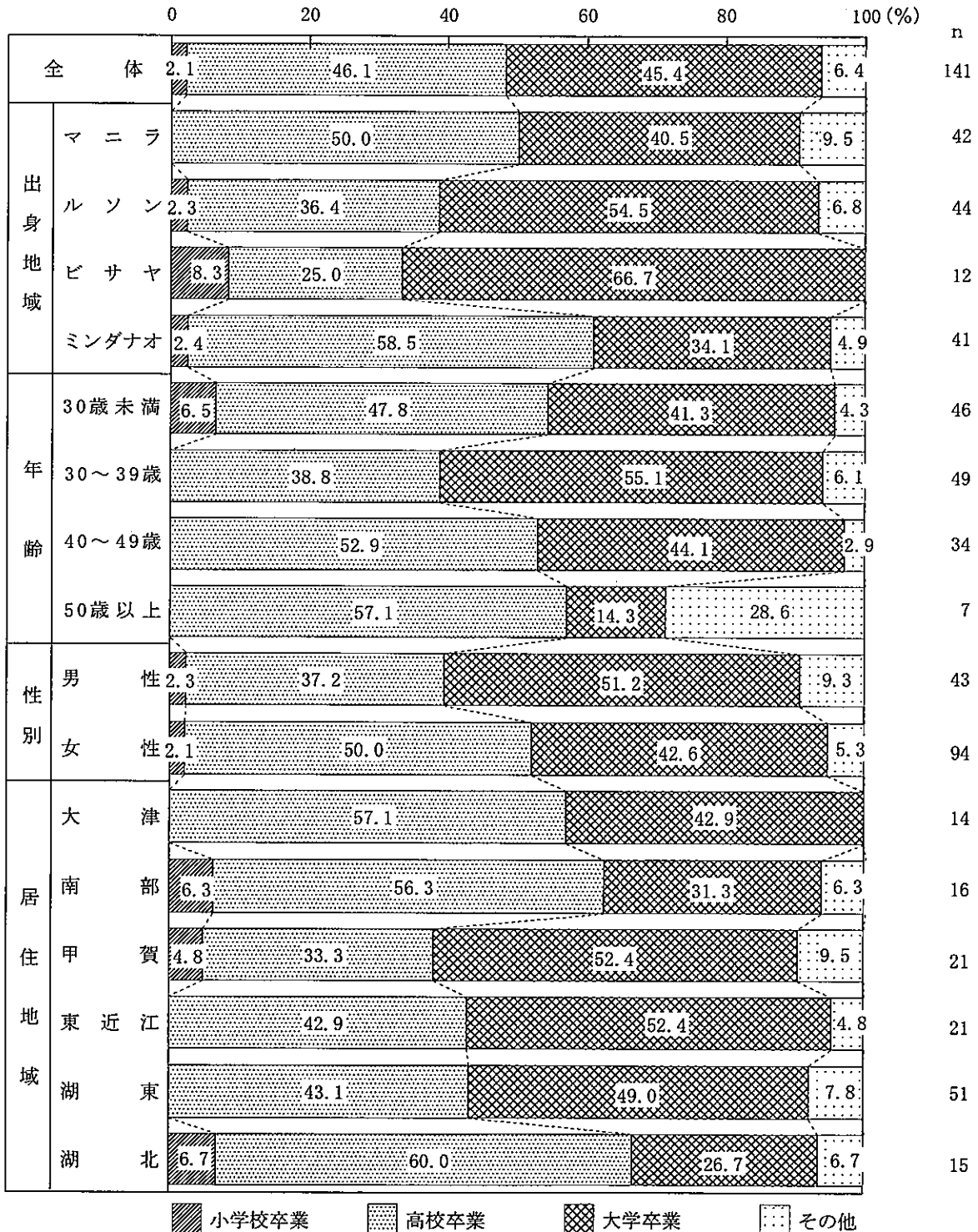
(注)「帰化している」という選択肢があったが、該当はなかった。

(10) 最終学歴

最終学歴は、「高校卒業」(46.1%)と「大学卒業」(45.4%)がほぼ同率です。「大学卒業」の比率が高いのは、出身地域別のビサヤ諸島、年齢別の30～39歳、居住地域別の甲賀・東近江です。

「その他」として、「職業訓練校」という記入がありました。

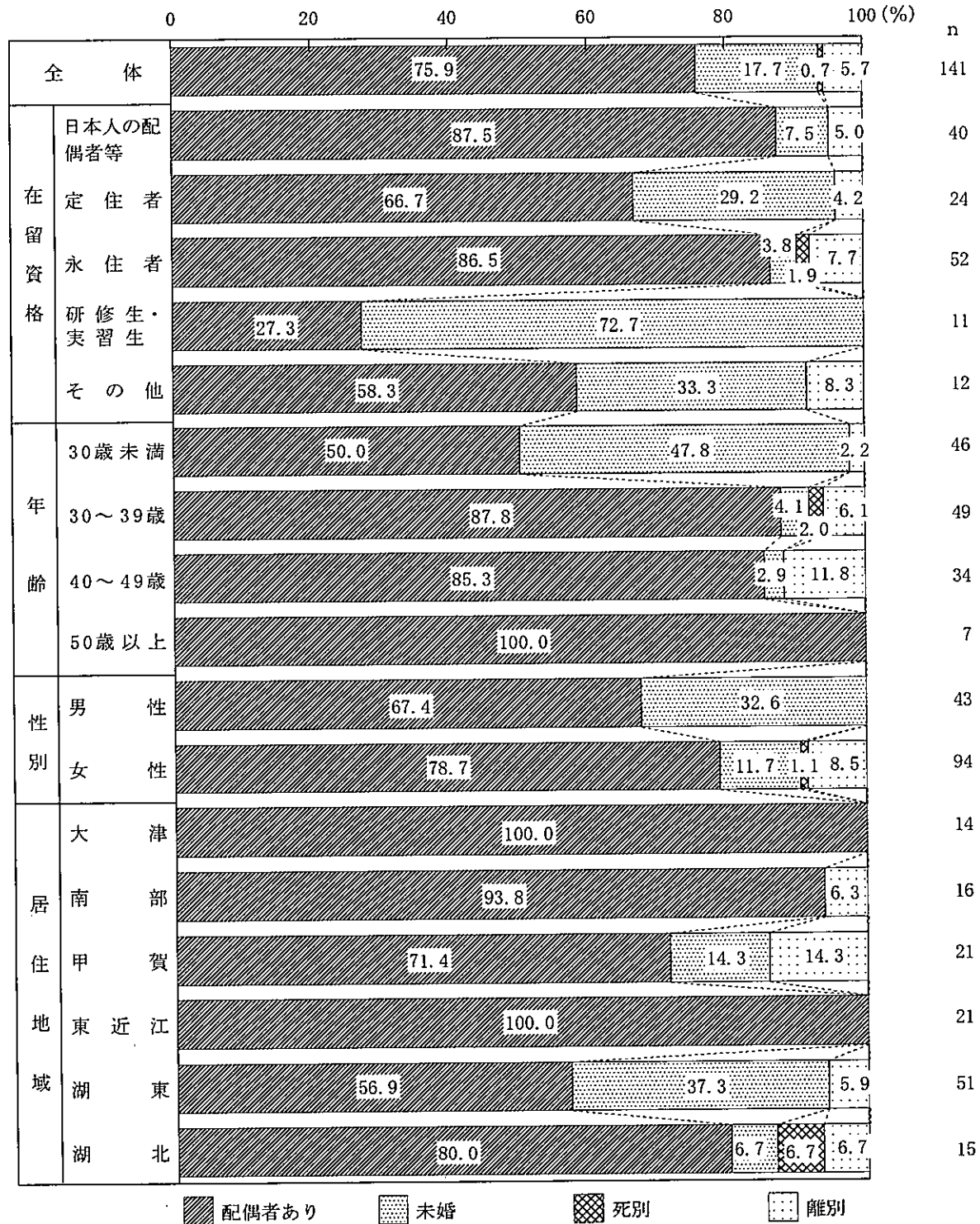
図2-11 最終学歴



(11) 配偶者の有無

配偶者のいる人は75.9%、「未婚」は17.7%です。年齢別にみると、30歳以上の87.7%が「配偶者あり」となっています。また、「配偶者あり」は、男性より女性が高くなっています。

図2-12 配偶者の有無

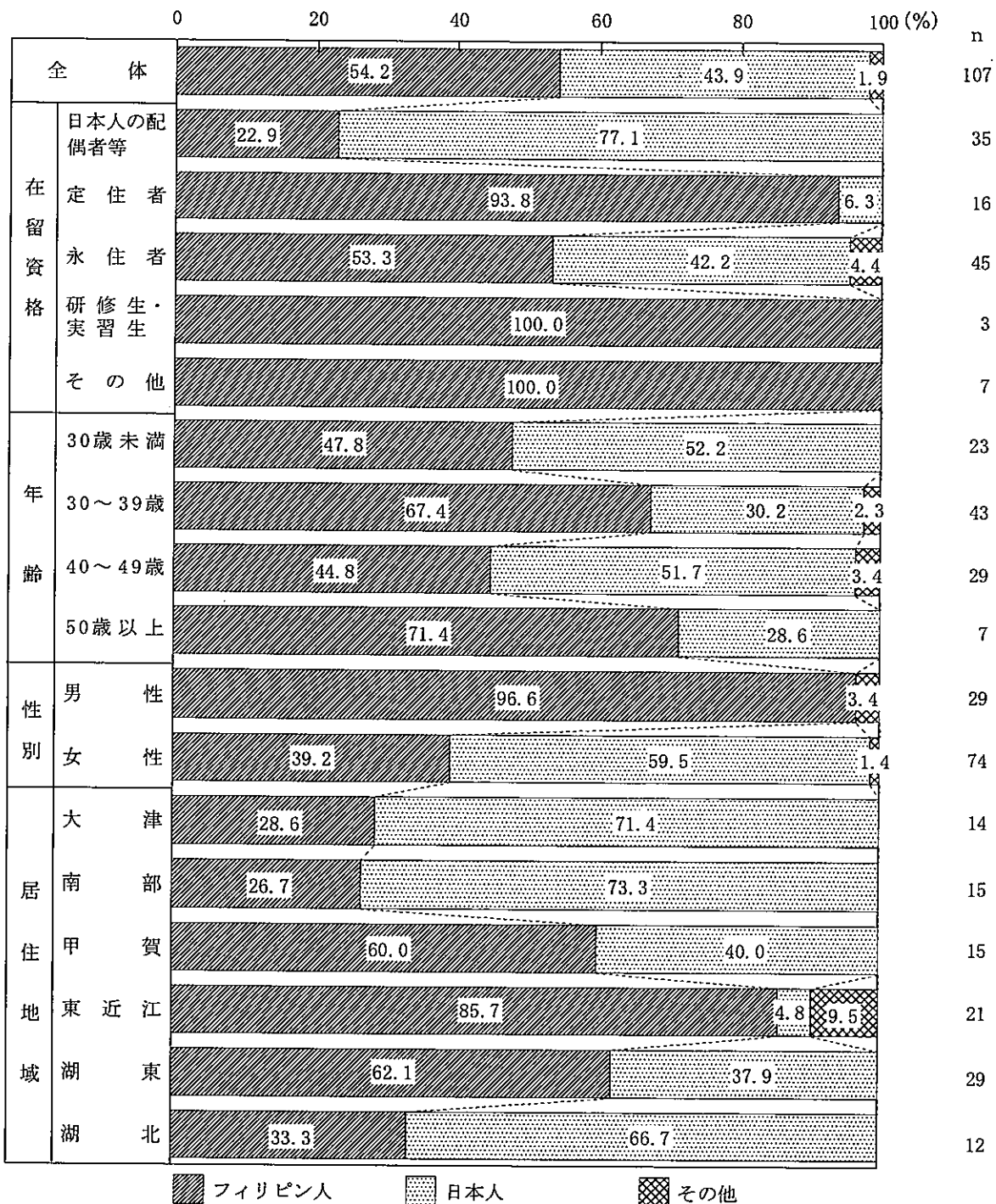


(12) 配偶者の国籍

前問で「配偶者あり」と答えた人に配偶者の国籍をたずねたところ、「フィリピン人」が54.2%、「日本人」が43.9%でした。配偶者が「日本人」と答えているのは、すべて女性です。なお、在留資格別の「日本人の配偶者等」に「フィリピン人」と答えている人がいますが、間違えて記入されていると考えられます。

「その他」として、「ブラジル人」という記入がありました。

図2-13 配偶者の国籍



(13) 同居人数

一緒に住んでいる人数は、「2人」(24.1%)、「4人」(21.3%)、「3人」(19.9%)、「5人」(18.4%)などとなっています。在留資格別の「研修生・技能実習生」の「6人以上」が63.6%と高くなっていますが、寮等に住んでいるものと推測されます(図2-14)。

図2-15は、同居人数の平均です。全体の平均人数4.23人は、平成17年の国勢調査による全国の平均世帯人員2.55人、滋賀県の平均世帯人員2.85人よりかなり多い数字です。

図2-14 同居人数

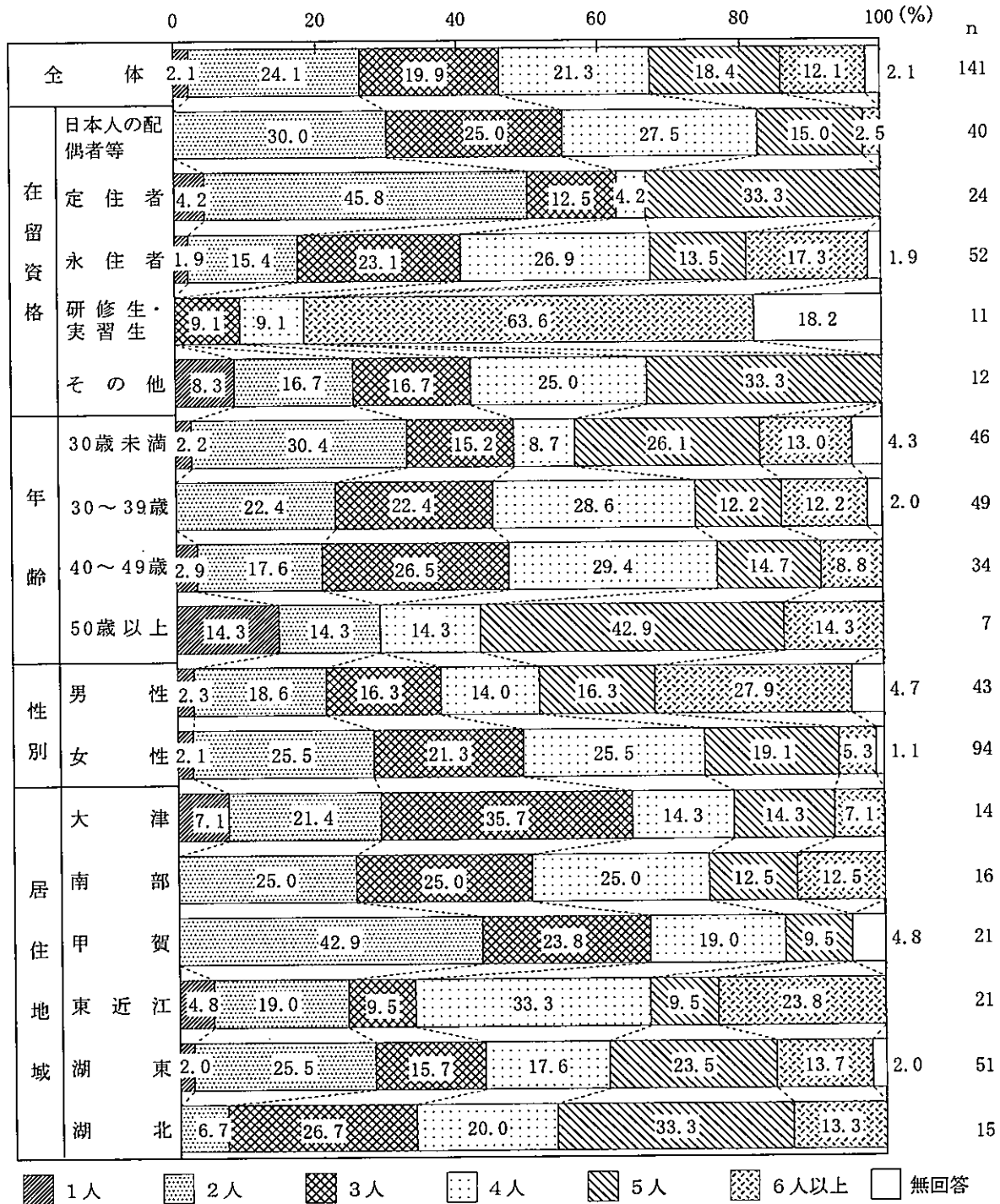
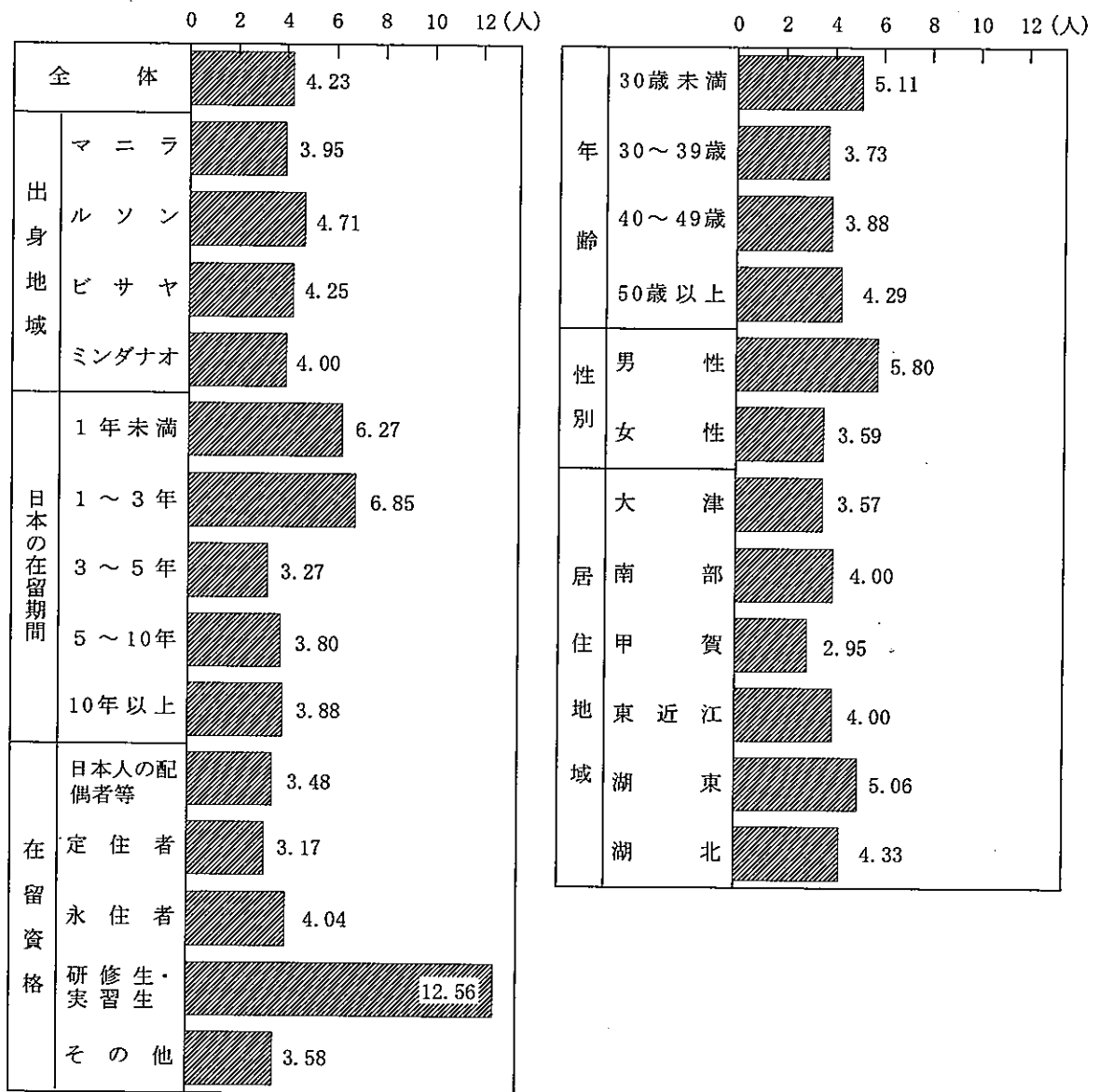


図2-15 平均同居人数



(14) 家族構成

家族構成は、「夫婦と子ども」(34.8%)が最も高く、次いで「その他」(31.2%)、「夫婦のみ」(16.3%)などとなっています。「その他」は、在留資格別の研修生・技能実習生、年齢別の30歳未満、性別の男性が高くなっています。

表2-1は、「その他」の内訳です。

図2-16 家族構成

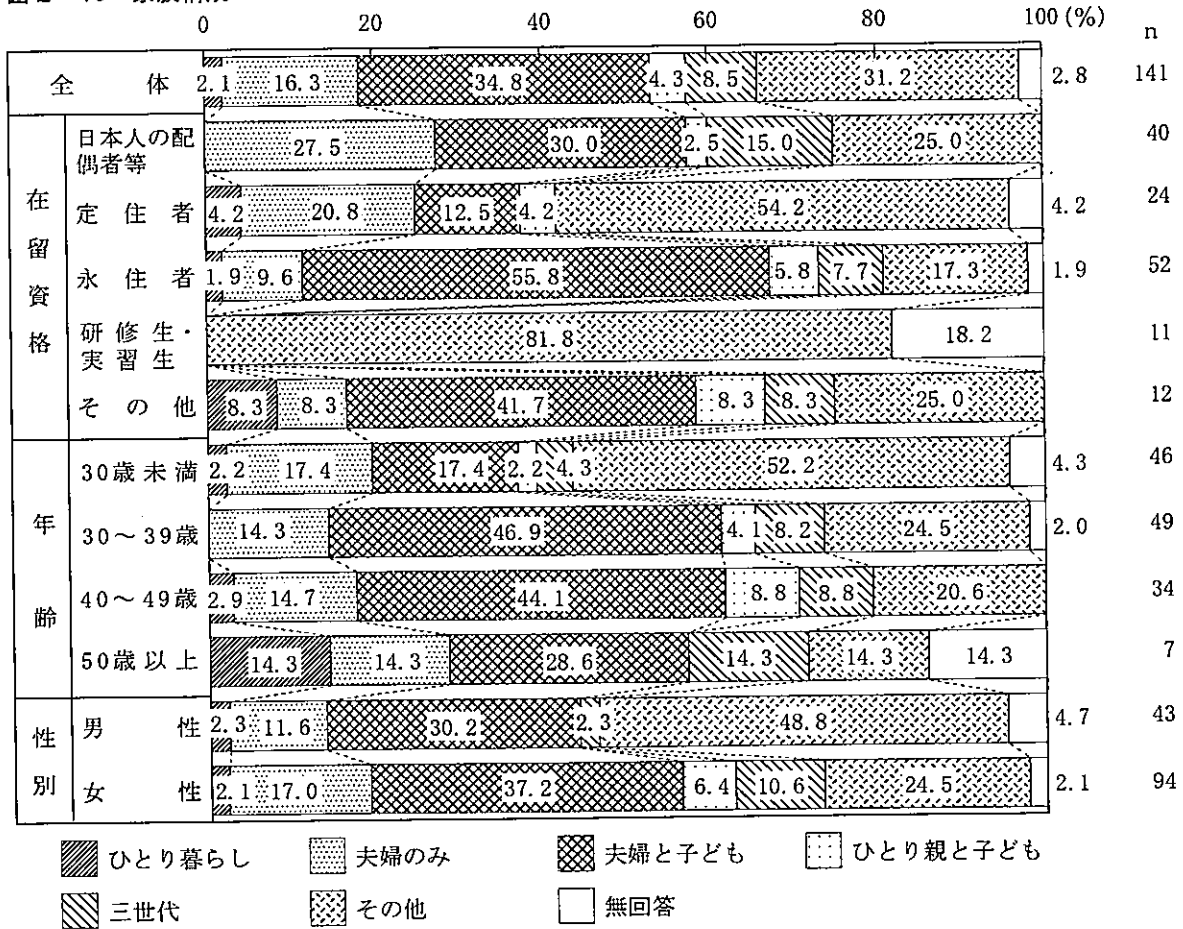


表2-1 「その他」の内訳

同居者	回答数	同居者	回答数
本人、職場の同僚	10	本人、きょうだい、いとこ	1
本人、きょうだい	6	本人、子ども、いとこ	1
本人、子ども、きょうだい	3	本人、子ども、母親、義母、おじ・おば	1
本人、友人	3	本人、子ども、友人	1
本人、子ども、おい・めい	2	本人、配偶者、義父	1
本人、配偶者、子ども、きょうだい	2	本人、配偶者、義父、義母	1
本人、配偶者、子ども、義理のきょうだい	2	本人、配偶者、義理のきょうだい	1
本人、父・母、きょうだい	2	本人、配偶者、子ども、乳母	1
本人、いとこ	1	本人、配偶者、子ども、友人	1
本人、おじ・おば	1	本人、友人、職場の同僚	1
本人、おじ・おば、おい	1	本人、恋人	1
合計			44

(15) 同居している子どもの人数

子どものいる80人の同居している子ども数は、「2人」(35.0%)、「1人」(32.5%)、「3人以上」(30.0%)となっています。これを就学前、小学生というように年齢の節目ごとにみると、すべて「1人」が高くなっています(図2-17)。

図2-18は、子どもの平均人数をみたものです。全体では2.1人であり、就学前が1.4人、小学生および中学生が1.3人などとなっています。

図2-17 同居している子どもの人数

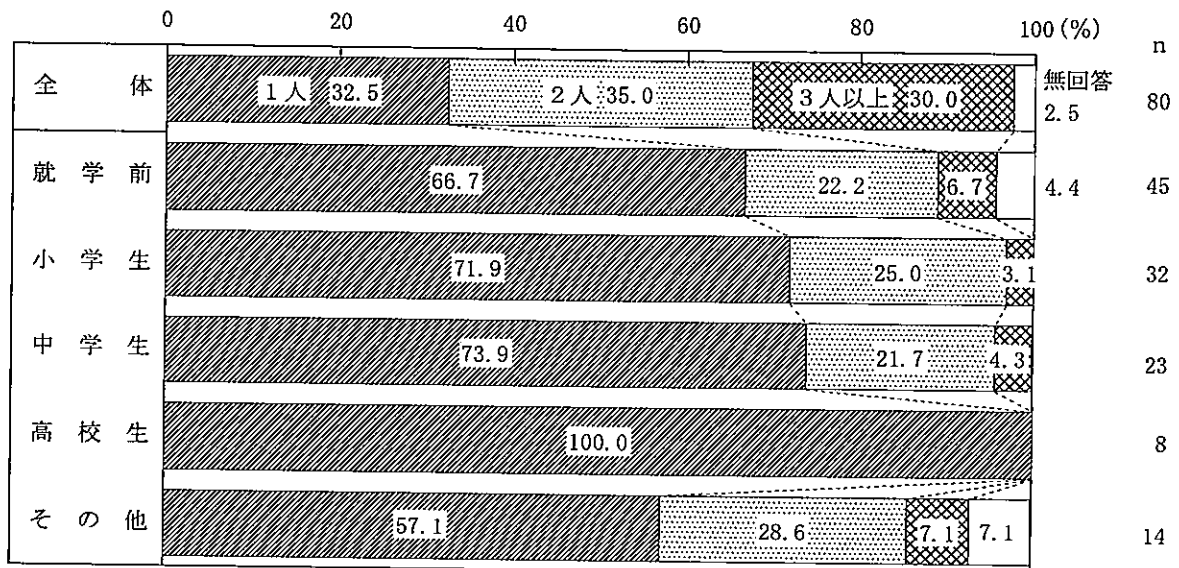
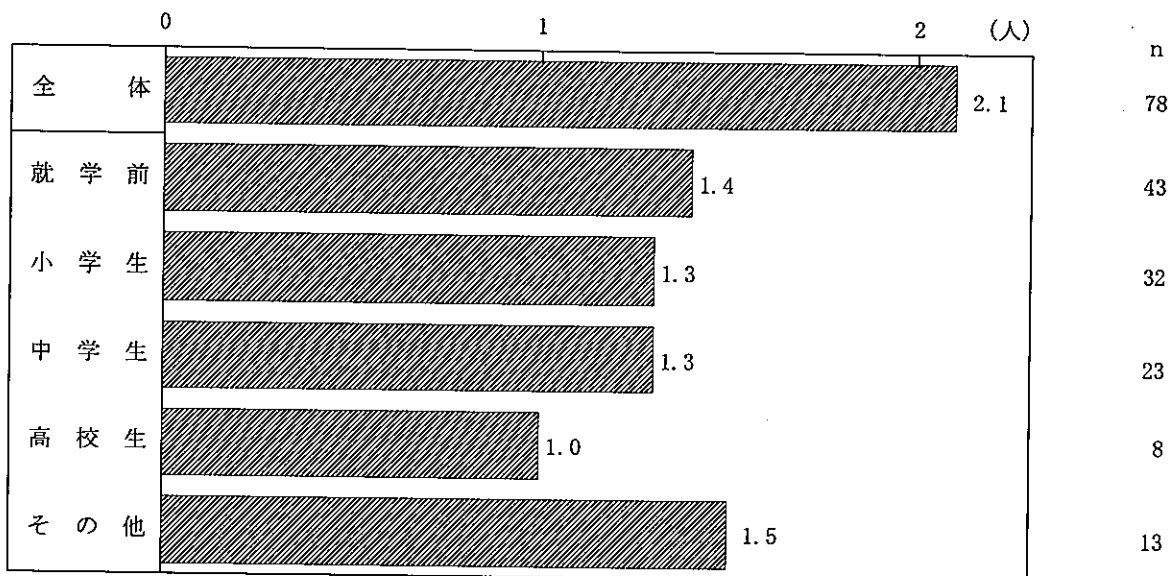


図2-18 子どもの平均人数

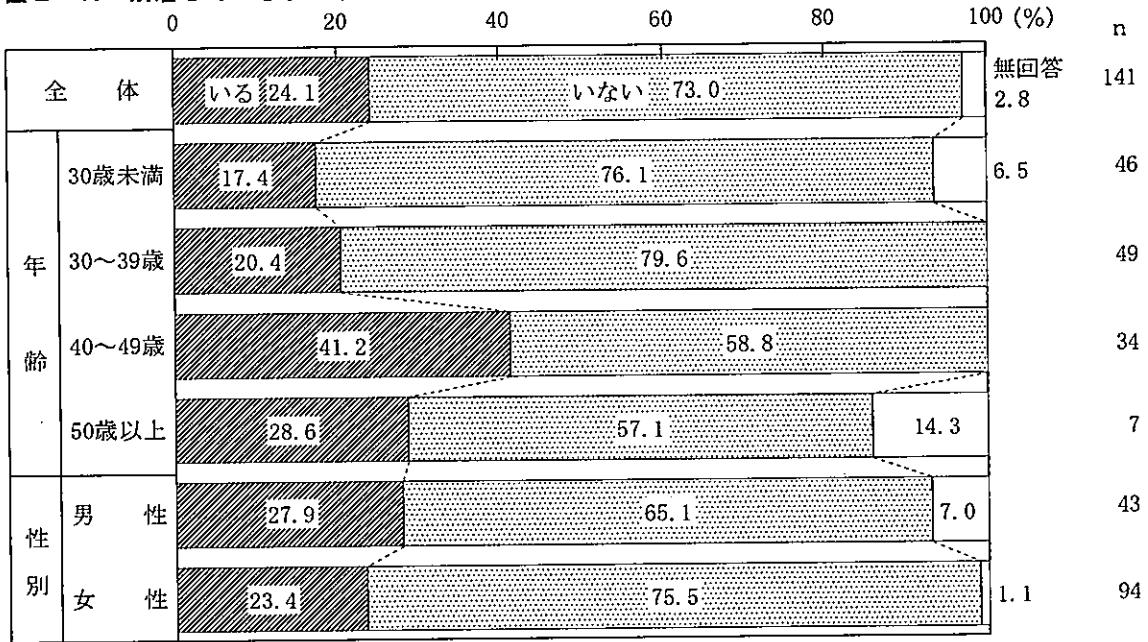


(16) 別居している子ども

① 別居している子どもがいるか

別居している子どもが「いる」と答えたのは24.1% (34人) です。年齢別の40～49歳の「いる」率が高くなっています。

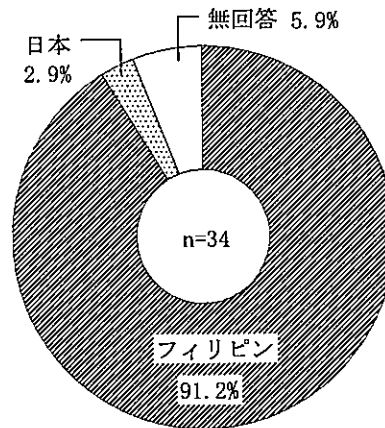
図2-19 別居している子どもがいるか



② 子どもが住んでいる国

別居している子どもが住んでいる国は、「フィリピン」が91.2% (31人)、「日本」が2.9% (1人) です。

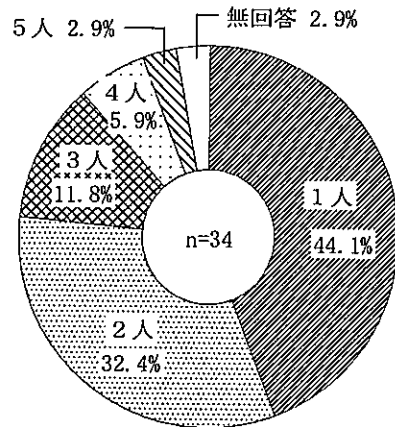
図2-20 子どもが住んでいる国



③ 別居している子どもの人数

別居している子どもの人数は、「1人」(44.1%)、「2人」(32.4%)、「3人」(11.8%)という順になっています。平均の子どもの人数は1.9人です。

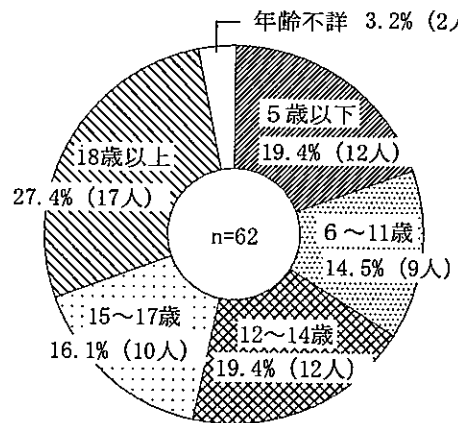
図2-21 別居している子どもの人数



④ 別居している子どもの年齢別人数

別居している子どもの年齢別人数は、「18歳以上」(27.4%)が最も高くなっており、次いで「5歳以下」「12～14歳」(ともに19.4%)などとなっています。親の保護が必要と考えられる18歳未満の子どもの合計は69.4% (43人)です。

図2-22 別居している子どもの年齢別人数



2 言葉・交流

(1) 日常使用している言葉

日常使っている言葉は、「タガログ語」(62.4%)と「日本語」(60.3%)が拮抗しています。日本の在留期間別にみると、「日本語」は10年以上が高くなっていますが、他の年齢階層においては在留期間の長短と日本語の使用についての連関が見られません。年齢別では、日本での生活が長い50歳以上の「日本語」が低くなっています。性別では、男性より女性の「日本語」が高く、居住地域別では東近江の「日本語」が低くなっています。なお、「タガログ語」のみに○をつけている人が38人、「その他」だけに○をつけている人が7人います。

「その他」として、「ビサヤ語」(16件)、「ポルトガル語」「パンパンガ語」という記入がありました。

表2-2 日常使用している言葉(複数回答)

単位：nは人、他は%

区 分		n	タ ガ ロ グ 語	日 本 語	英 語	そ の 他
全 体		141	62.4	60.3	24.1	14.9
日 本 の 在 留 期 間	1年未満	13	76.9	46.2	30.8	23.1
	1～3年	13	84.6	61.5	15.4	7.7
	3～5年	22	68.2	59.1	27.3	22.7
	5～10年	51	60.8	51.0	25.5	23.5
	10年以上	41	51.2	75.6	22.0	-
年 齢	30歳未満	46	76.1	65.2	26.1	13.0
	30～39歳	49	59.2	53.1	22.4	20.4
	40～49歳	34	55.9	61.8	26.5	14.7
	50歳以上	7	71.4	42.9	14.3	-
性 別	男 性	43	86.0	41.9	20.9	27.9
	女 性	94	53.2	67.0	26.6	9.6
居 住 地 域	大 津	14	50.0	78.6	21.4	-
	南 部	16	37.5	81.3	43.8	-
	甲 賀	21	71.4	47.6	19.0	9.5
	東 近 江	21	47.6	38.1	19.0	61.9
	湖 東	51	76.5	56.9	17.6	3.9
	湖 北	15	53.3	80.0	26.7	20.0

(注) フィリピンの公用語はフィリピン語と英語ですが、島や地域ごとにそれぞれの言語があります。

マニラを中心に、ルソン島に住むタガログ語を話す人は人口の3割、ビサヤ地方のセブアノも約3割、そのほか、イロカノ、イロンゴ、イロカノ語、ビコール、サマール、レイテ、パンパンゴ、パンガシナンなど言語の数は100以上といわれています。

出典：「フィリピンと出会う」

P54より

(2) 日本語を話せるか

「日本語が話せますか？」という設問に対しては、「簡単な会話ができる」(52.5%)と「日常会話ができる」(33.3%)の合計が85%を超えています。「日常会話ができる」は、日本の在留期間が長いほど、年齢が高いほど、高くなる傾向がみられ、居住地域別では甲賀が高く、東近江が低くなっています(図2-24)。

なお、日本語能力試験に合格していると答えた人が20人いました。

図2-23 日本語能力試験に合格していると答えた人

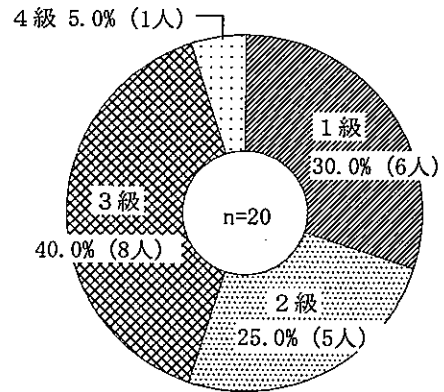
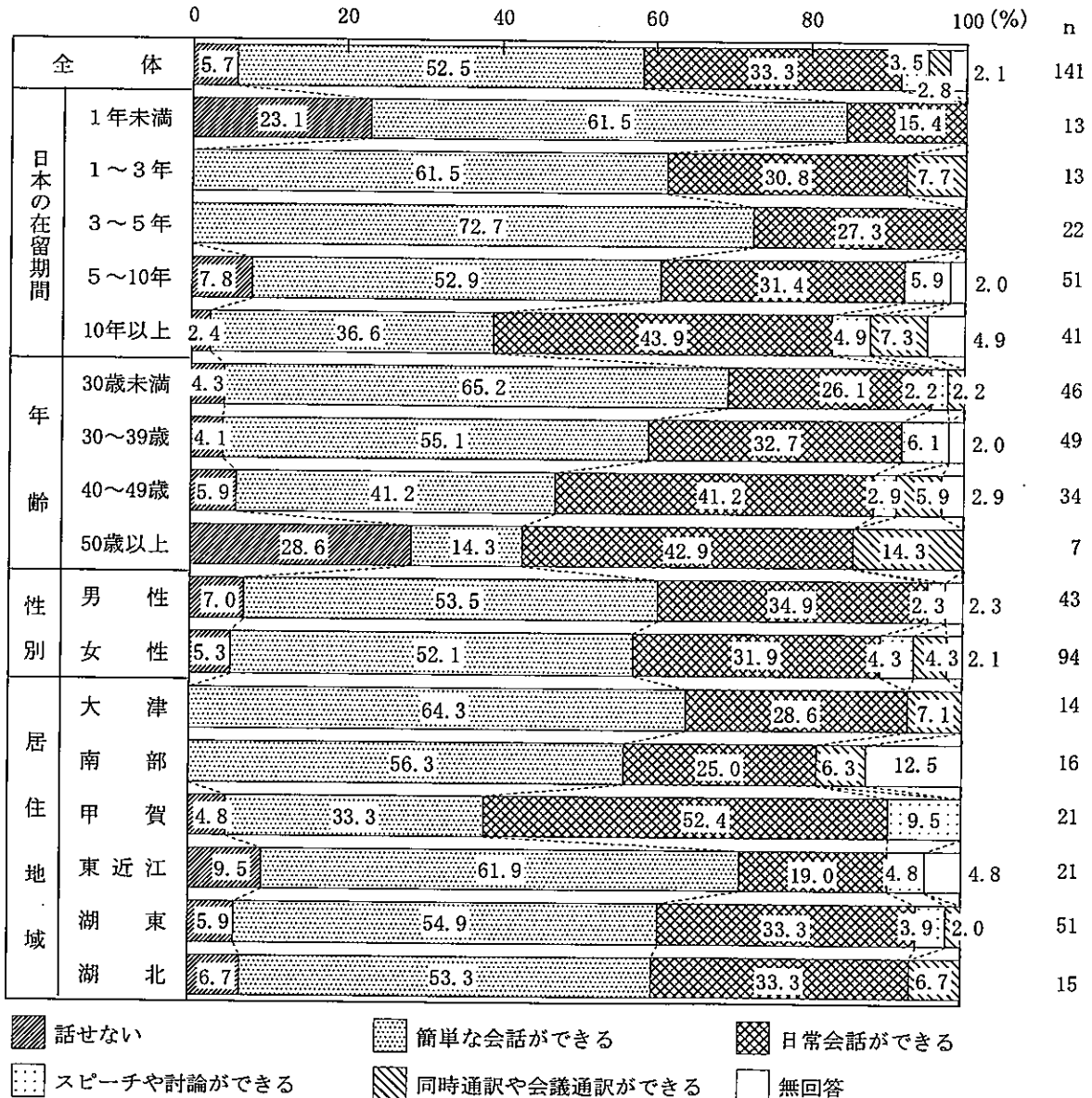


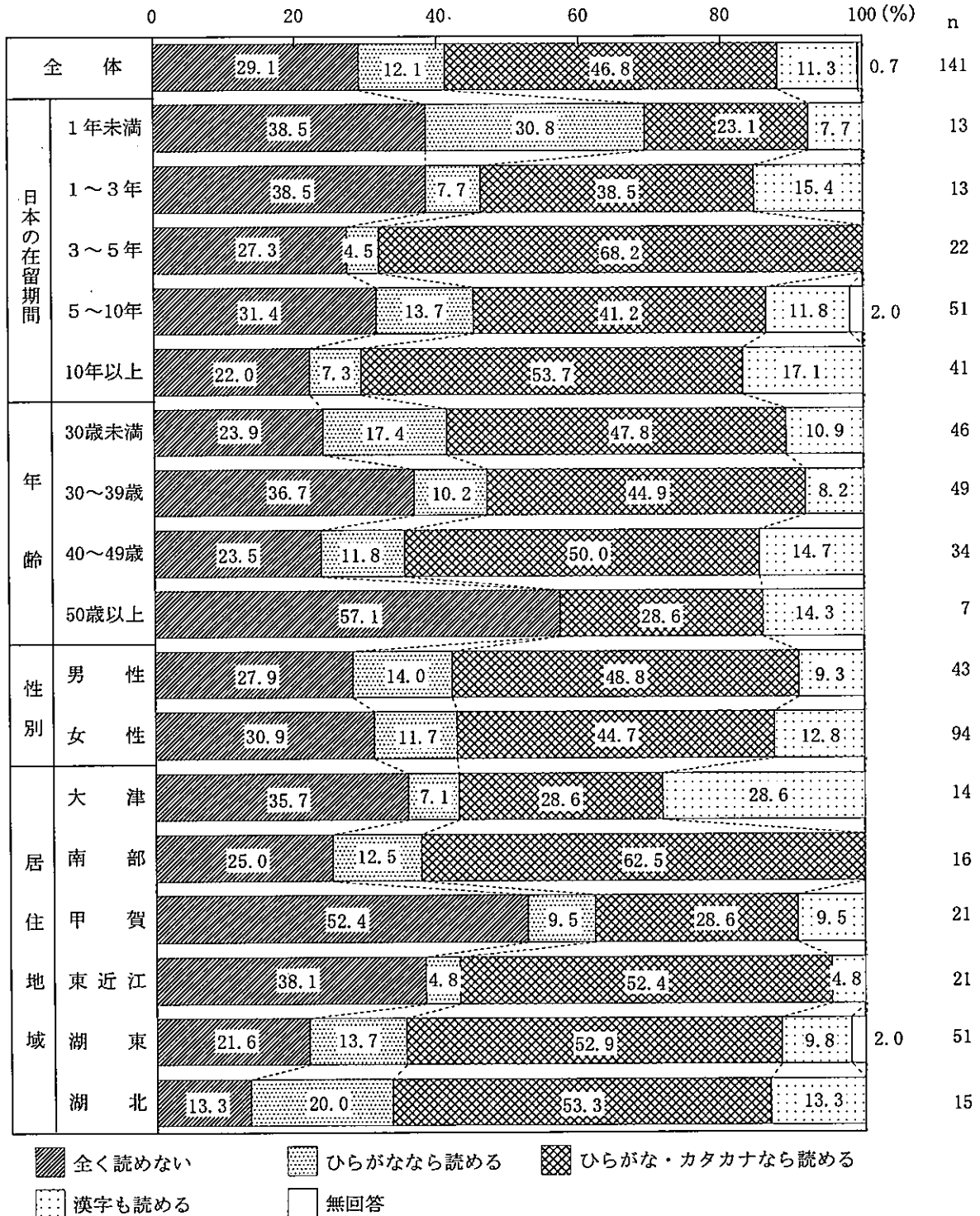
図2-24 日本語を話せるか



(3) 日本語が読めるか

「日本語が読めますか?」という設問に対しては、「ひらがな・カタカナなら読める」(46.8%)が最も高く、次いで「全く読めない」(29.1%)となっており、「漢字も読める」は11.3%にすぎません。ある程度まで漢字の読み書きができないと、日本での生活が困難と推察されます。

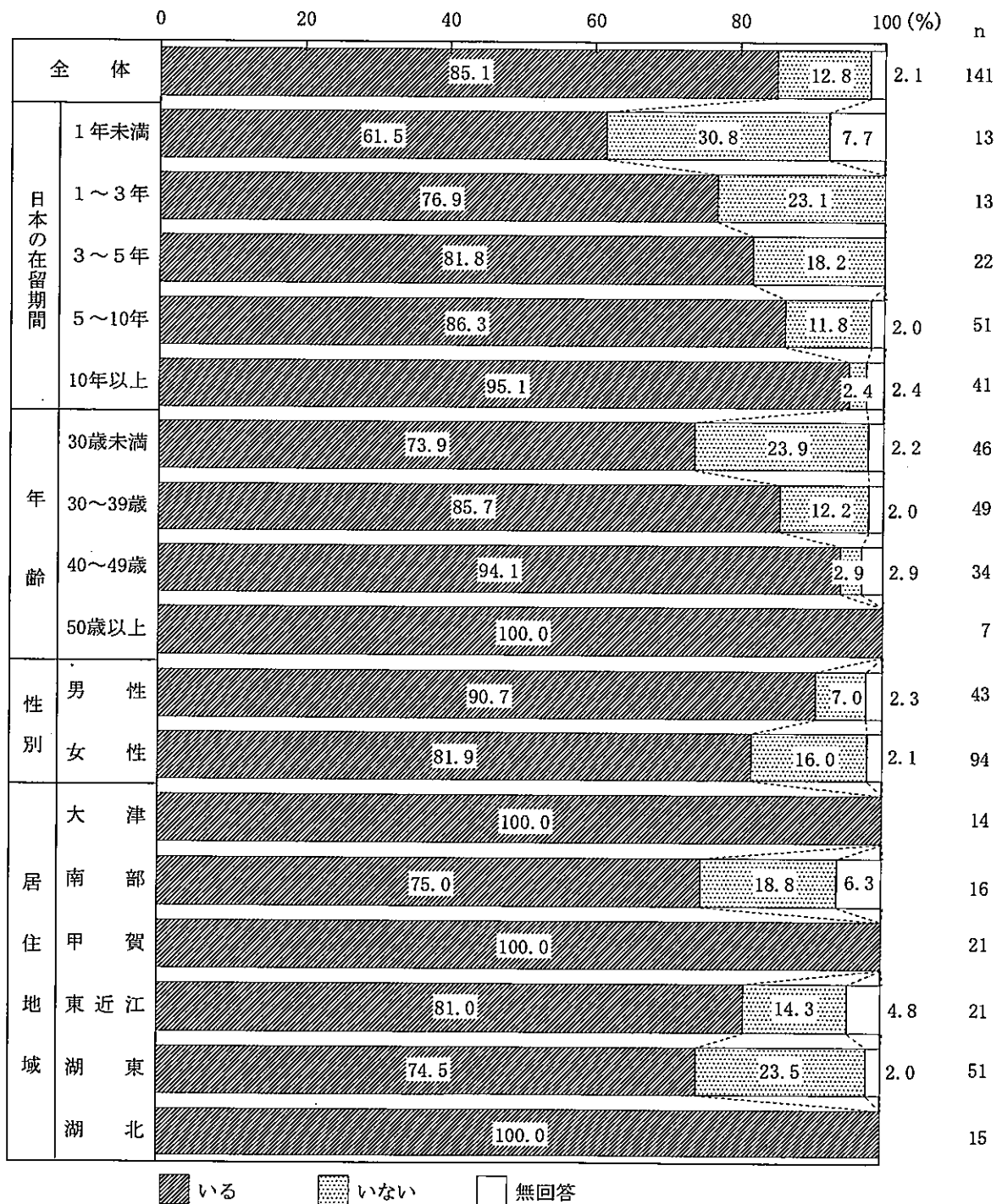
図2-25 日本語が読めるか



(4) 日本人の友だちがいるか

日本人の友だちは「いる」が85.1%を占めています。日本の在留期間が長いほど、年齢が高いほど、「いる」の率が高くなっています。男性より女性の「いる」率が低くなっていますが、男性のほとんどが外へ働きに行くのに対し、女性のなかには専業主婦がいるためと考えられます。居住地域別では、大津・甲賀・湖北の「いる」率が100%でした。

図2-26 日本人の友だちがいるか



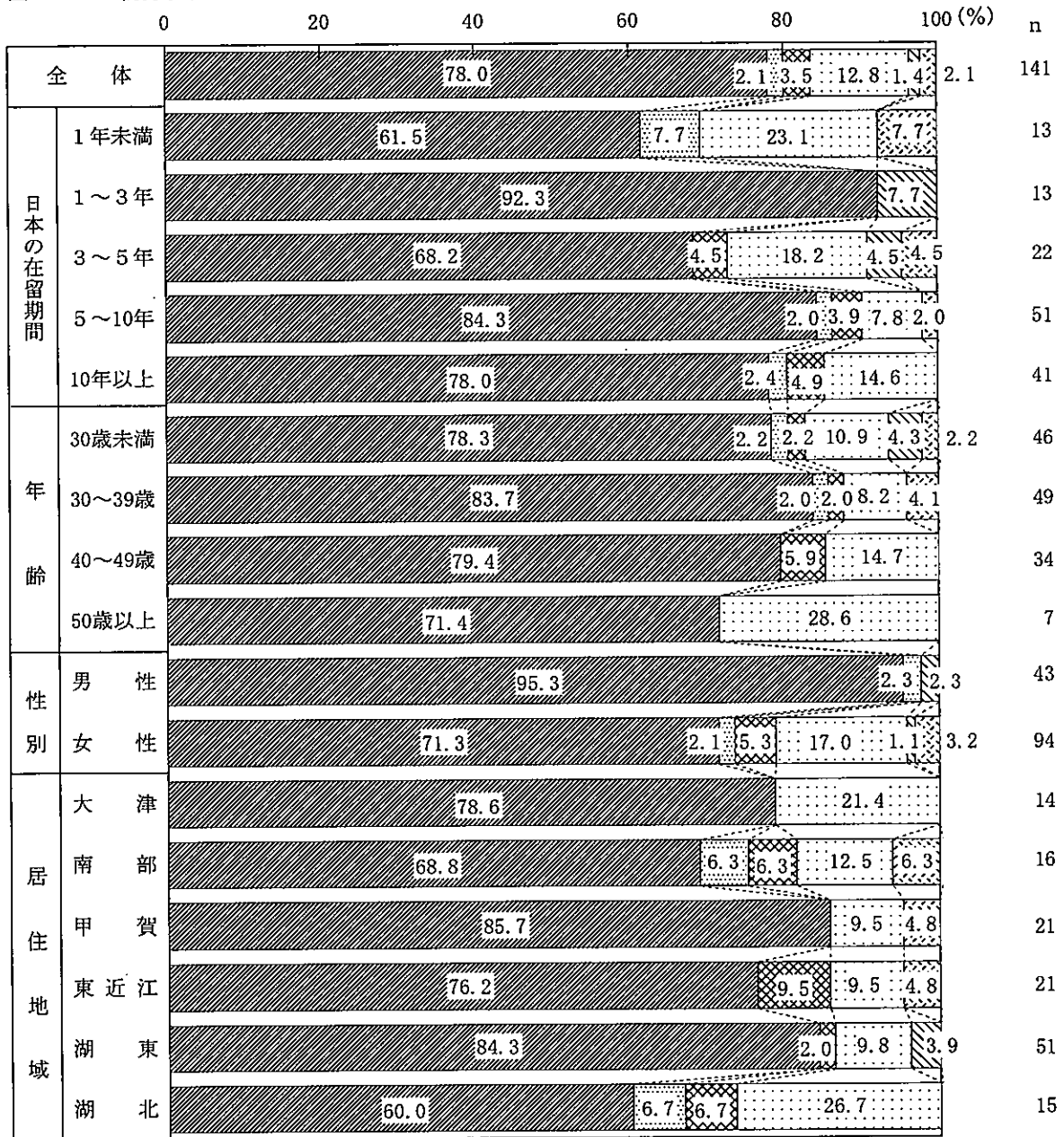
3 就労と今後

(1) 就労状況

現在「仕事をしている」人は78.0%です。「仕事を探している」(3.5%)を失業率とみなすと、平成22年11月分の日本の完全失業率8.7%より低いという結果になります。

「その他」として、「治療中なのでしていない」という記入がありました。

図2-27 就労状況



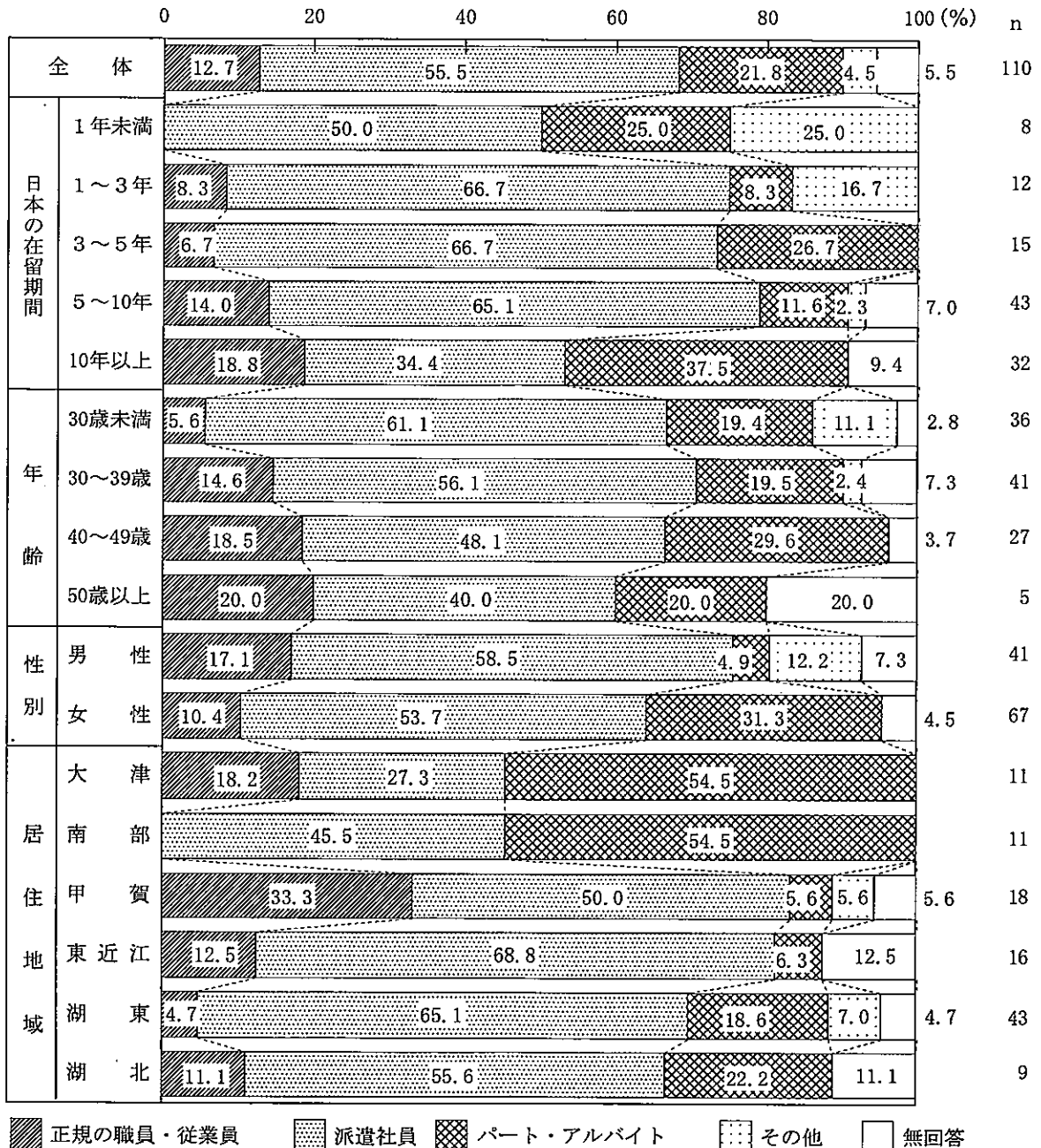
仕事をしている
 仕事を休んでいる
 仕事を探している
 家事
 通学
 その他

(2) 就労形態

前問で「仕事をしている」と答えた110人の就労形態は、図2-28のとおりです。「派遣社員」(55.5%)が最も高く、次いで「パート・アルバイト」(21.8%)、「正規の職員・従業員」(12.7%)などとなっています。年齢別にみると、年齢が高くなるほど「正規の職員・従業員」が高く、「派遣社員」が低くなっています。居住地別で「派遣社員」の占める率が高いのは、東近江と湖東です。

「その他」として、「研修生」(4件)、「お弁当」「契約社員」という記入がありました。

図2-28 就労形態



(注)「自営業主」「家族従業者」「内職」という選択肢があったが、該当はなかった。

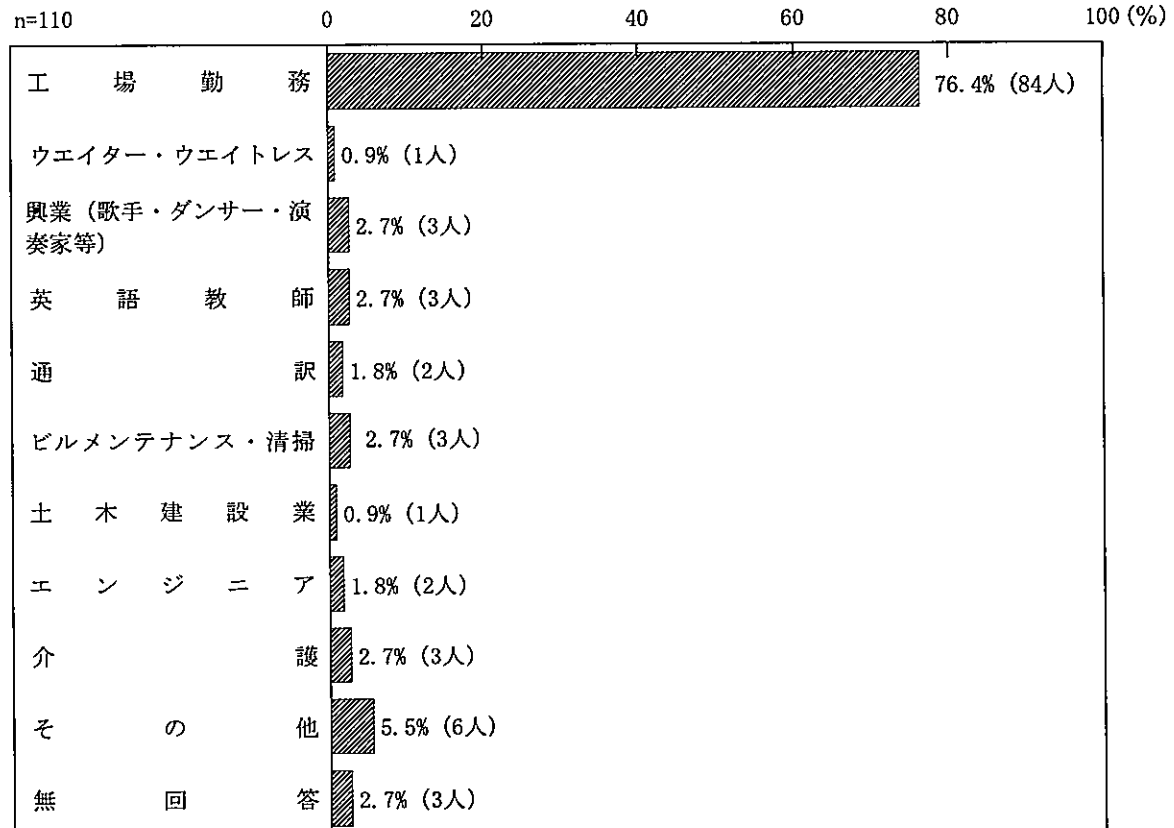
(3) 仕事の内容

現在の仕事の内容は、「工場勤務」が76.4%を占めています（図2-29）。

図2-30で居住地域別の「工場勤務」の率をみると、甲賀・東近江が高く、大津が低くなっています。

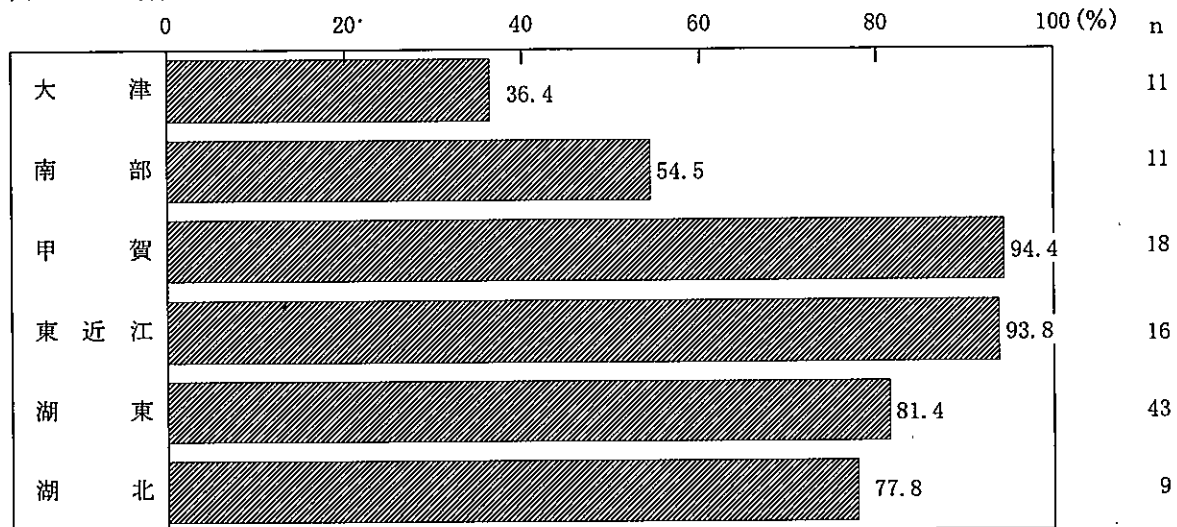
「その他」として、「研修生」（4件）、「ホテルの部屋係」という記入がありました。

図2-29 仕事の内容



（注）「店の販売員」「小売業」「医療関係」「農業」という選択肢があったが、該当はなかった。

図2-30 居住地域別工場勤務者の率

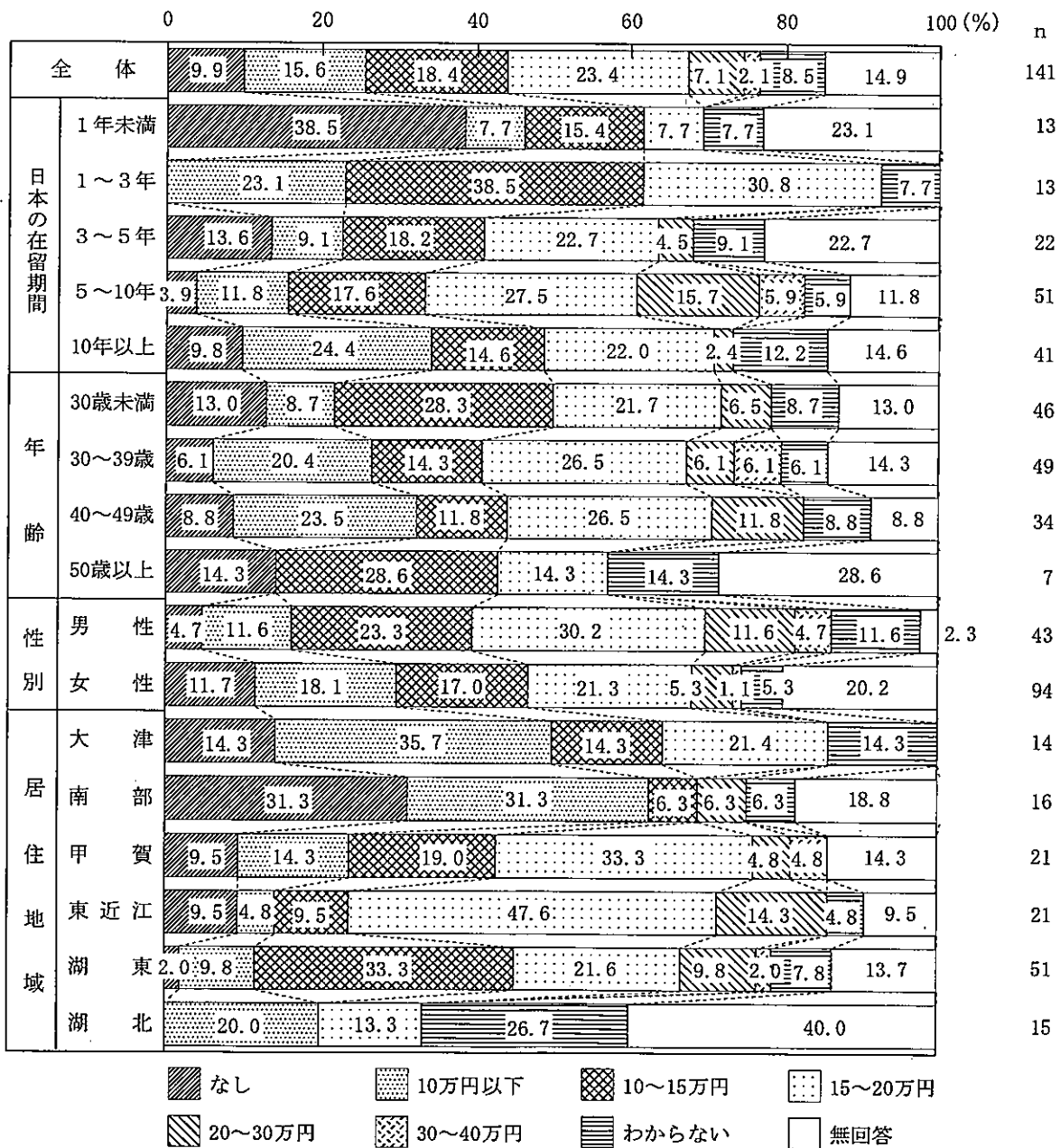


(4) 10月の収入

10月の収入は、「15～20万円」(23.4%)、「10～15万円」(18.4%)、「10万円以下」(15.6%)の順になっており、無回答が14.9%、「なし」が9.9%あります(図2-31)。

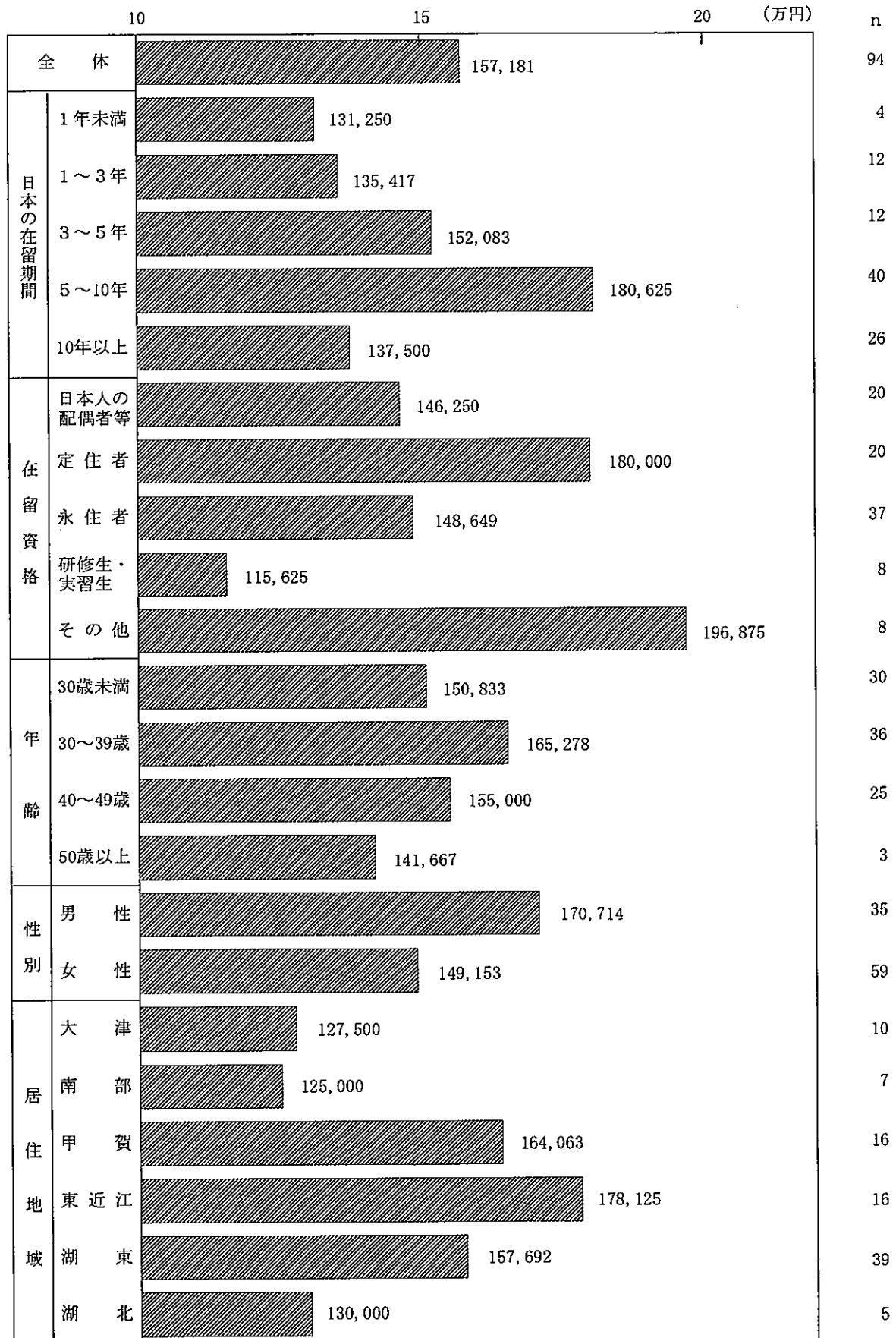
図2-32は、収入「なし」「わからない」および無回答を除いた10月の平均収入です。収入金額に○をつけた94人の10月の平均収入は15万7,181円です。在留資格別にみると、日本人の配偶者等が低くなっていますが、これは年齢別の女性に該当する人が多く含まれているためです。居住地別では、工場勤務の派遣社員の多い東近江、甲賀および湖東が高くなっています。

図2-31 10月の収入



(注)「40万円～50万円」「50万円以上」という選択肢があったが、該当はなかった。

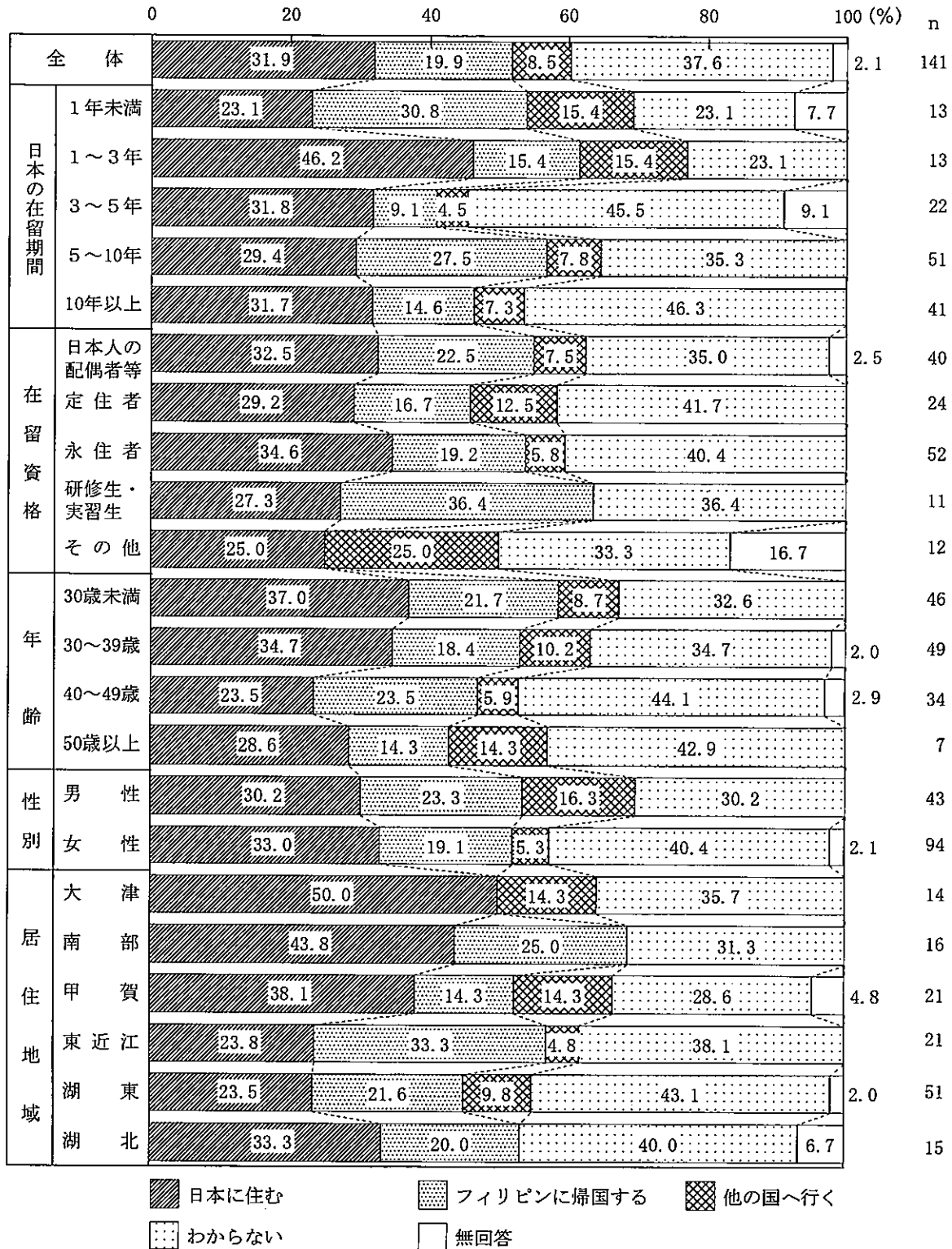
図2-32 10月の平均収入



(5) 将来の予定

将来の予定は、「わからない」(37.6%)、「日本に住む」(31.9%)、「フィリピンに帰国する」(19.9%)などとなっています。日本の在留期間が10年以上の人および在留資格が日本人の配偶者等の人であっても、「日本に住む」が30%台と低くなっています。

図2-33 将来の予定



4 情 報

(1) 情報入手媒体

「日常の情報収集は何を利用していますか？」という設問に対しては、「パソコンでのインターネット」(66.0%)、「テレビ」(52.5%)、「友人等を通じて」(25.5%)などが高くなっています。日本の在留期間別の1年未満および1～3年の人は、「新聞」「雑誌」「フリーペーパー」「ラジオ」がありません。

「新聞名」として、「読売新聞」(2件)、「朝日新聞」「フィリピン人新聞」「フィリピンダイジェスト」「ジャパントイムズ」、「雑誌名」として「みみタロウ」(2件)、「その他」として「仕事場」という記入がありました。

表 2-3 情報の入手に何を利用しているか(3つまで)

単位：nは人、他は%

区 分	n	新聞	雑誌	フリーペーパー	ラジオ	テレビ	携帯電話 ネットの トイ	パソコン ネットの トイ	友人等 を通じて	その他	無回答
全 体	141	7.8	2.1	19.9	0.7	52.5	12.8	66.0	25.5	0.7	0.7
日本の 在留期間	1年未満	13	-	-	-	38.5	15.4	84.6	15.4	-	-
	1～3年	13	-	-	-	38.5	7.7	92.3	23.1	-	-
	3～5年	22	-	-	27.3	-	36.4	18.2	72.7	13.6	4.5
	5～10年	51	7.8	3.9	17.6	-	56.9	5.9	70.6	27.5	-
	10年以上	41	14.6	2.4	31.7	2.4	63.4	17.1	41.5	34.1	-
在 留 資 格	日本人の 配偶者等	40	12.5	5.0	17.5	2.5	52.5	15.0	62.5	35.0	-
	定 住 者	24	4.2	-	25.0	-	50.0	8.3	83.3	12.5	-
	永 住 者	52	9.6	1.9	25.0	-	61.5	15.4	51.9	25.0	1.9
	研修生・ 技能生	11	-	-	-	-	45.5	-	90.9	27.3	-
	そ の 他	12	-	-	16.7	-	33.3	8.3	83.3	25.0	-
年 齢	30歳未満	46	-	-	15.2	-	47.8	10.9	82.6	15.2	-
	30～39歳	49	6.1	2.0	14.3	-	57.1	14.3	67.3	22.4	2.0
	40～49歳	34	11.8	2.9	26.5	2.9	58.8	17.6	52.9	44.1	-
	50歳以上	7	42.9	-	57.1	-	57.1	-	14.3	28.6	-
性 別	男 性	43	2.3	4.7	23.3	-	48.8	14.0	81.4	25.6	2.3
	女 性	94	10.6	-	19.1	1.1	55.3	12.8	59.6	25.5	-

(2) 必要な情報

必要な情報としては、「仕事」(40.4%)、「医療」(34.8%)、「教育」(34.0%)など、普段の生活に欠くことのできないものがあげられています。居住地域別にみると、大津は「福祉」「教育」「仕事」「日本・滋賀県の制度」、南部は「医療」「住宅」、甲賀は「医療」、東近江は「住宅」「仕事」「滋賀県の生活情報」、湖東は「教育」、湖北は「日本・滋賀県の制

表2-4 どんな情報が必要か(5つまで)

区分	n	医療	福祉	子育て	教育	買い物・レジャー	外食(レストラン等)	交通機関・旅行	住宅	仕事	ビジネス	
全体	141	34.8	25.5	12.1	34.0	15.6	4.3	12.8	27.0	40.4	19.9	
在留資格	日本人の配偶者等	40	35.0	22.5	20.0	32.5	17.5	2.5	17.5	22.5	32.5	7.5
	定住者	24	29.2	20.8	8.3	29.2	12.5	-	12.5	29.2	50.0	29.2
	永住者	52	42.3	36.5	7.7	42.3	11.5	3.8	11.5	32.7	48.1	23.1
	研修生・技能生	11	9.1	9.1	-	45.5	36.4	9.1	9.1	9.1	27.3	45.5
	その他	12	33.3	8.3	25.0	8.3	8.3	16.7	8.3	25.0	25.0	8.32
年齢	30歳未満	46	17.4	4.3	10.9	26.1	23.9	6.5	13.0	23.9	37.0	1.7
	30~39歳	49	40.8	40.8	16.3	44.9	10.2	2.0	16.3	28.6	36.7	18.4
	40~49歳	34	52.9	29.4	8.8	32.4	14.7	5.9	8.8	35.3	58.8	26.5
	50歳以上	7	28.6	42.9	-	14.3	-	-	14.3	14.3	28.6	-
性別	男性	43	32.6	30.2	2.3	30.2	18.6	4.7	7.0	39.5	44.2	32.6
	女性	94	36.2	23.4	16.0	36.2	14.9	4.3	16.0	22.3	40.4	14.9
居住地	大津	14	35.7	42.9	14.3	42.9	7.1	7.1	7.1	7.1	71.4	-
	南部	16	50.0	18.8	25.0	6.3	6.3	6.3	25.0	43.8	25.0	12.5
	甲賀	21	47.6	33.3	4.8	33.3	-	-	14.3	9.5	23.8	23.8
	東近江	21	33.3	23.8	9.5	33.3	19.0	-	9.5	42.9	47.6	28.6
	湖東	51	29.4	25.5	7.8	43.1	21.6	3.9	11.8	27.5	39.2	27.5
	湖北	15	26.7	13.3	26.7	33.3	26.7	6.7	13.3	33.3	40.0	6.7

度」がそれぞれ高くなっています。

その他として、「回覧板」「自治会」「フィリピンにいる2人の子どもを日本に連れてきて一緒に住みたい」「どうすれば自分の子どもと家族が日本に来られるか」「社会保険」という記入がありました。

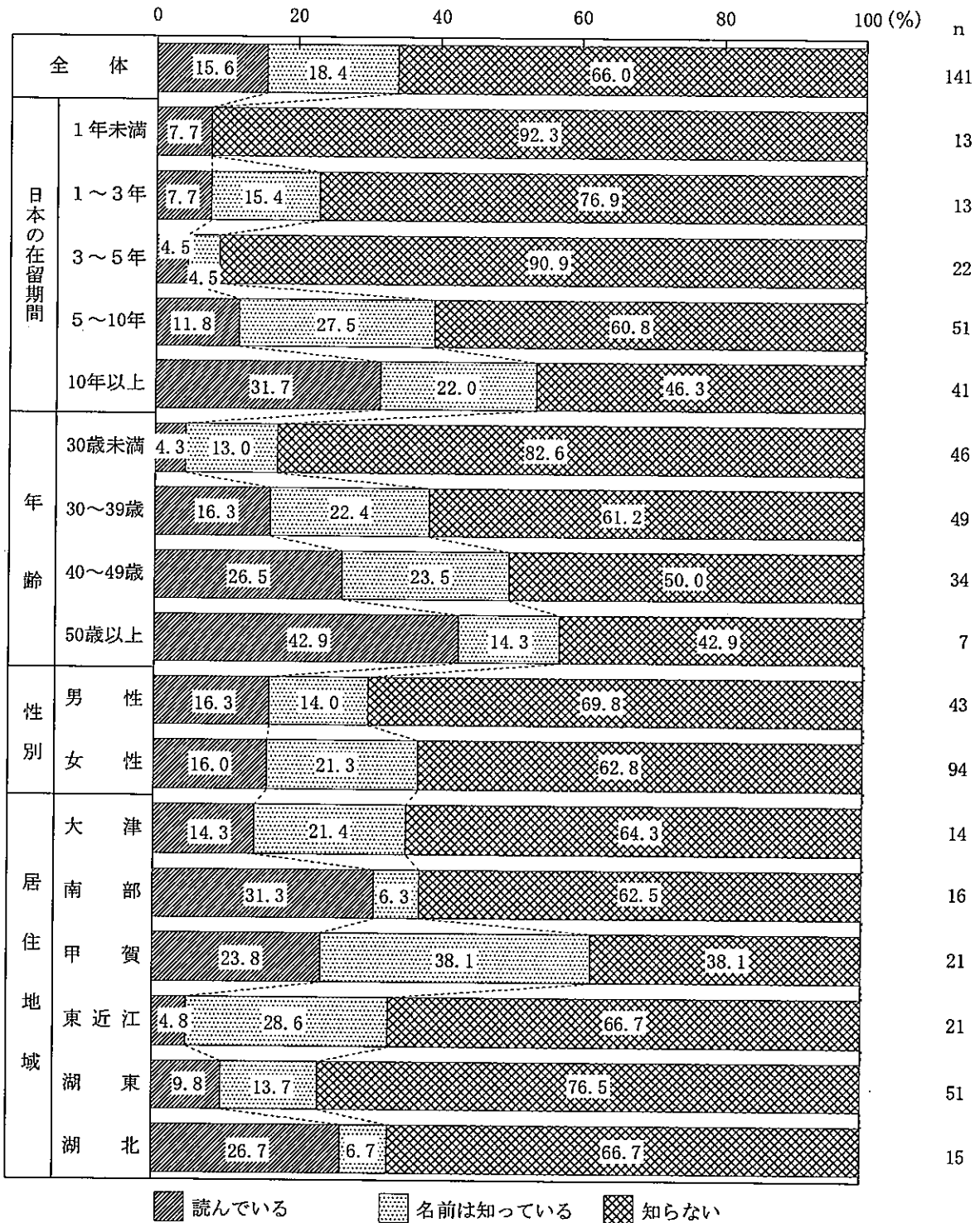
単位：nは人、他は%

通訳	日本語教室	滋賀県の生活情報	日本・滋賀県の制度	在留資格関連	その他	無回答
6.4	19.1	28.4	31.9	11.3	3.5	7.1
7.5	27.5	25.0	32.5	20.0	5.0	7.5
8.3	12.5	25.0	16.7	12.5	-	-
5.8	21.2	36.5	48.1	3.8	3.8	9.6
-	9.1	18.2	18.2	18.2	9.1	-
8.3	8.3	25.0	8.3	8.3	-	8.3
4.3	13.0	15.2	10.9	21.7	4.3	4.3
2.0	24.5	38.8	46.9	2.0	4.1	6.1
17.6	26.5	26.5	41.2	11.8	2.9	5.9
-	-	57.1	28.6	14.3	-	28.6
7.0	20.9	34.9	30.2	4.7	2.3	4.7
6.4	19.1	26.6	34.0	14.9	4.3	8.5
7.1	21.4	28.6	57.1	14.3	7.1	7.1
12.5	18.8	31.3	37.5	18.8	-	6.3
4.8	23.8	33.3	19.0	9.5	9.5	19.0
9.5	19.0	38.1	42.9	4.8	-	-
2.0	11.8	17.6	19.6	11.8	3.9	3.9
13.3	33.3	33.3	46.7	13.3	-	13.3

(3) 「みみタロウ」の認知度

外国人向け情報紙「みみタロウ」については、「読んでいる」が15.6%、「名前は知っている」が18.4%、「知らない」が66.0%です。「読んでいる」が高いのは、日本の在留期間別の10年以上（31.7%）、年齢別の50歳以上（42.9%）、居住地域別の南部（31.3%）です。

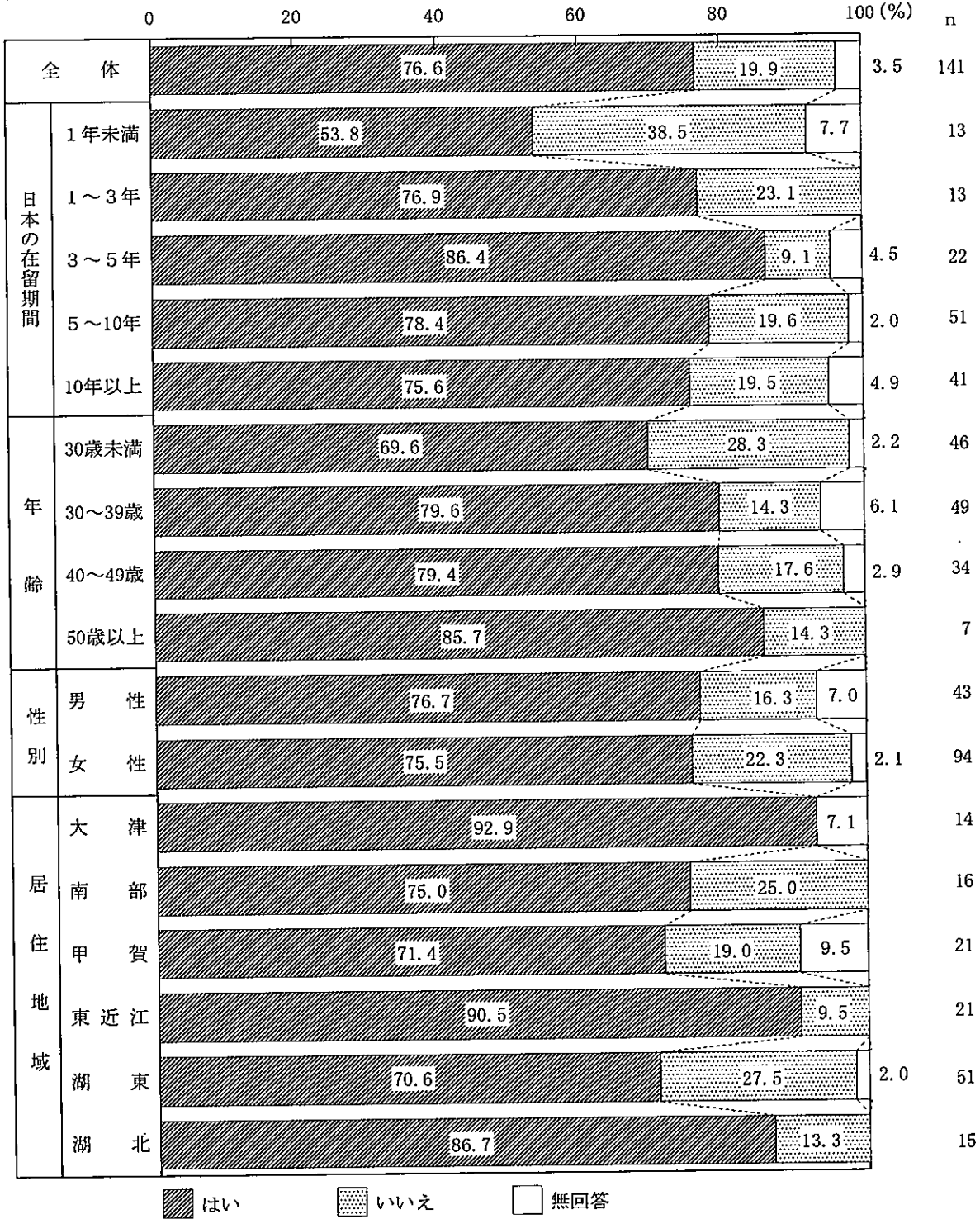
図2-34 「みみタロウ」を知っているか



(4) 「みみタロウ」を送ってほしいか

「外国人向け情報紙『みみタロウ』を送ってほしいですか?」という設問に対しては、「はい」が76.6%と非常に高い率です。「はい」と答えて調査票に住所と名前を記載してある方には、「みみタロウ」を送ります。

図2-35 「みみタロウ」を送ってほしいか



5 記述式回答

(1) 楽しみ

- インターネット (27件)
- テレビを見ること (10件)
- 旅行 (9件)
- 仕事 (8件)
- 本を読むこと (7件)
- 子どもを育てること (5件)
- コンピュータ (4件)
- 買物 (4件)
- 散歩 (4件)
- 教会活動 (3件)
- 聖書の勉強 (3件)
- コンピューターゲーム (2件)
- 雑誌を読むこと (2件)
- 友だちと遊ぶこと (2件)
- 家と仕事 (2件)
- バスケットボール (2件)
- 映画を見ること (2件)
- 食べること (2件)
- 日本語の勉強 (2件)
- 料理をする。(2件)
- インターネットゲーム
- 新聞を読むこと
- 滋賀県やフィリピンに関する本や雑誌
- 日本のドラマを見ること
- フィリピンチャンネルを見る。
- 子どもを持つこと。友だちとのつきあい。そして、子どもたちや友人たちとカラオケに行くこと

- 友だちをつくること
- 子どもと一緒に友だちのところへ行く。
- 子どもと一緒に遊園地へ行く。
- 子どもと遊ぶこと
- 毎日、子どもを幼稚園まで送ること
- 子どもたちを連れて公園かショッピングセンターへ行く。
- 家族と遊ぶこと
- 情報収集、生活、仕事
- スポーツ
- サーフィン
- テニス
- ニュースを聞くこと
- アパート
- 読む、書く
- ピアノをひくこと
- いろいろな集まりに出席すること
- 家の掃除
- 日本の料理の勉強をしている。
- ケーキを焼くことやフィリピン料理やレシピをつくること。
- フィリピン語と日本語の音楽を聴くこと。

(2) 困っていること

- 金銭的なこと (8件)
- 収入が少ない。(2件)
- 厳しい社員がいる。(2件)
- 仕事場。離婚しているので永住ビザをとること。
- 高校2年生の17歳の子どもが北海道にいます。私の住民票は滋賀県に移していません。
子どもが卒業するまで滋賀県にいても大丈夫でしょうか。
- 仕事をしてお金を貯めたいです。遠いところに行きたいけど、子どもがかわいそうだからできない。旦那に言われて、あれしてこれしてもたくさんです。
- 普通の問題です。

○言語差別

○日本の法律が変わったので、来年には日本に来られる実習生がなくなる。日本の新しい法律はどんなシステムですか。

○家と仕事

○家

○仕事

○安定した仕事がほしい。

○安定した仕事がありません。

○仕事の保障がない。延長できるかどうかは分からない。

○いつまで働けるか。毎月の生活がいつまでできるか分からない。

○仕事の収入が少ない。アルバイトでしたら。

○仕事のことで。給料が少なくなった。家計が大変。税金の支払いが多い。

○税金が高い。所得が低い。

○支払いが多い。保険が高い。収入ではまかなえないときがある。

○支払いが多い。

○健康保険料を払う余裕がない。娘が唯一の働き手であり、私たちを支えてくれている。

私も夫も72歳で、週に3回はリハビリに病院へ行かなければならない。高齢のため完全な治療が必要だ。

○住宅金融の宅地開発業者にだまされた。できるだけ早く弁護士が必要

○健康（心臓の病気）

○子どもの世話

○翻訳

○私は日本の習慣がわかりません。私の子どもと日本の子どもが交流してほしい。

(3) 意見・要望

○書類を英訳してほしい。（2件）

○燃えるごみの袋は、燃やすだけなのに高い。安いものはないか。

○離婚しても、3年以内にしても、永住ビザをとれること。仕事で税金を取られているので、永住ビザがもらえること。とくに今は仕事がありません。給料はだいたい1か月15万円あるかないぐらい。

○市役所に英語の申込用紙があるといい。市役所に電話通訳をおいてほしい。

- 知事からお金をもらっている人は一人ひとりに直接話を聞く。住民たちにどんなことをしているのか。英語を教えることができる人に仕事を与える。知事、ボランティアとか。ここに住んでいる日本人と外国人たちに関心をもつこと大事だと思います。
- 市役所に英語とタガログ語の申込用紙があるといい。
- 私はひとり親です。日本語を読むことができません。もし可能なら、教育についての情報を英語で知りたい。
- 福祉機関と市役所に通訳を入れること。
- 日本語を少しでも学習したい。空手を習いたい。
- 英語の通訳
- 病院と福祉機関に通訳を入れる。
- 滋賀県の規則が分かればいいなと思っています。
- 助けてくれる人がいれば一人で暮らしたいです。旦那が行くことができないところに行きたい。
- いつか幸せがくるよう、そして、元気にいられるように。
- 回覧板
- 自治会か回覧板の翻訳
- いい仕事が見つかるといい。そして安い市営住宅
- 家がほしい。
- フィリピン人同士が皆仲良くなること、他の国にいる人たちも同じです。
- 仕事で問題があるとき、相談できる人がほしい。
- 相談できる人がほしい。仕事の問題、悩みなどがあつた時はどうすればいいですか。
- いい会社で仕事がしたい。正社員になりたい。
- 夜のアルバイトしかできない。安定した仕事がほしい。
- 学校教育を継続したり、フィリピン人には教育を与える（高校や大学）。
- フィリピン人のためのコンサルテーションセミナー
- 私は日本政府に意見があります。税金の支払いが多すぎる。
- 日々の生活を支えるような何らかの提供があればと思う。最も重要なのは治療を続けられることだ。私の保険は12月までしかない。
- 世界をあちこち歩き回ります。



第3章

まとめと考察

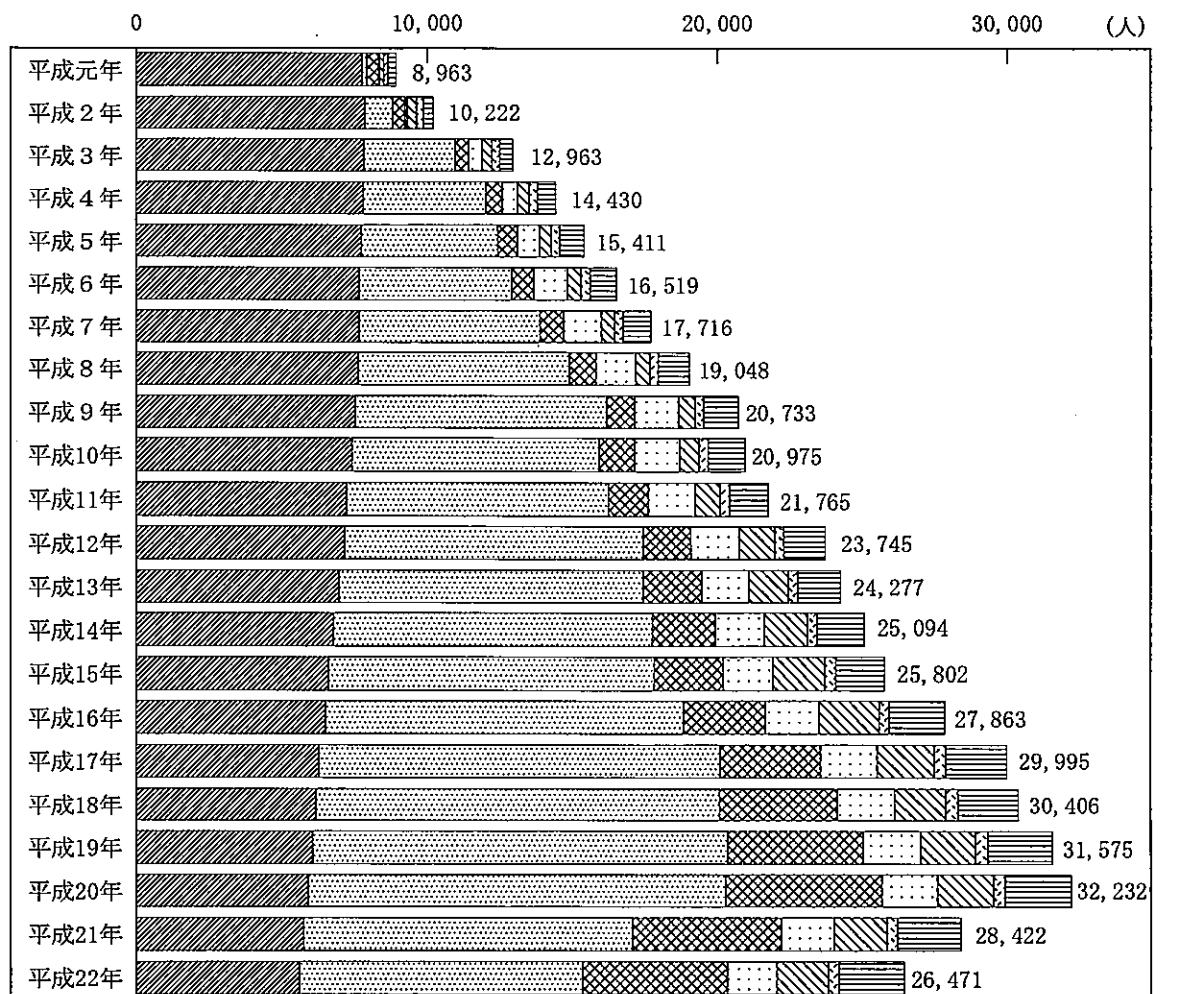
1 県内の外国人の状況

(1) 滋賀県における外国人登録者数

平成元年から平成20年にかけて、県内で暮らす外国人登録者数は増加を続けてきました。その主な要因として、平成2年に施行された「出入国管理及び難民認定法（入管法）」の改正でブラジル人をはじめとした南米国籍の人が大幅に増加したことがあげられます。近年では、研修生・技能実習生の受け入れの拡大により中国をはじめアジアからの外国人も増加しています。また、グローバル化による国際結婚の増加や留学生の受け入れの促進等により85か国の多様な背景をもつ外国人が滋賀県で暮らしています。

平成20年秋からの経済不況は、間接雇用の外国人労働者の解雇や雇い止めにつながり、多くの失業者を発生させました。これにより、帰国を余儀なくされた外国人も多く、平成20年まで増加を続けていた外国人登録者数は、2年連続で減少しました。

図3-1 国籍別外国人登録者数の推移（各年12月末現在）

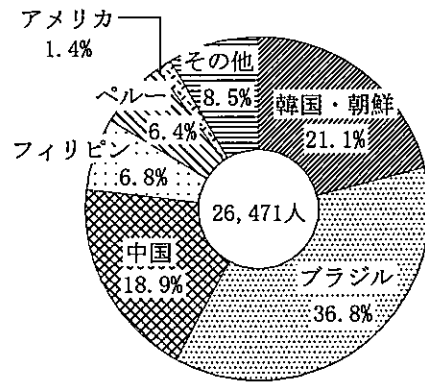


■ 韓国・朝鮮 ■ ブラジル ■ 中国 ■ ペルー ■ フィリピン ■ アメリカ ■ その他

資料：滋賀県商工観光労働部国際課・観光交流局「県内外国人登録者数」調べを基に当協会で作成

平成22年12月末現在の外国人登録者数は、最も多かった平成21年の32,232人より5,761人少ない26,471人です。最も多いブラジルが36.8%を占め、次いで韓国・朝鮮(21.1%)、中国(18.9%)、フィリピン(6.8%)、ペルー(6.4%)、アメリカ(1.4%)となっています。

図3-2 国籍別外国人登録者数 (平成22年12月末現在)

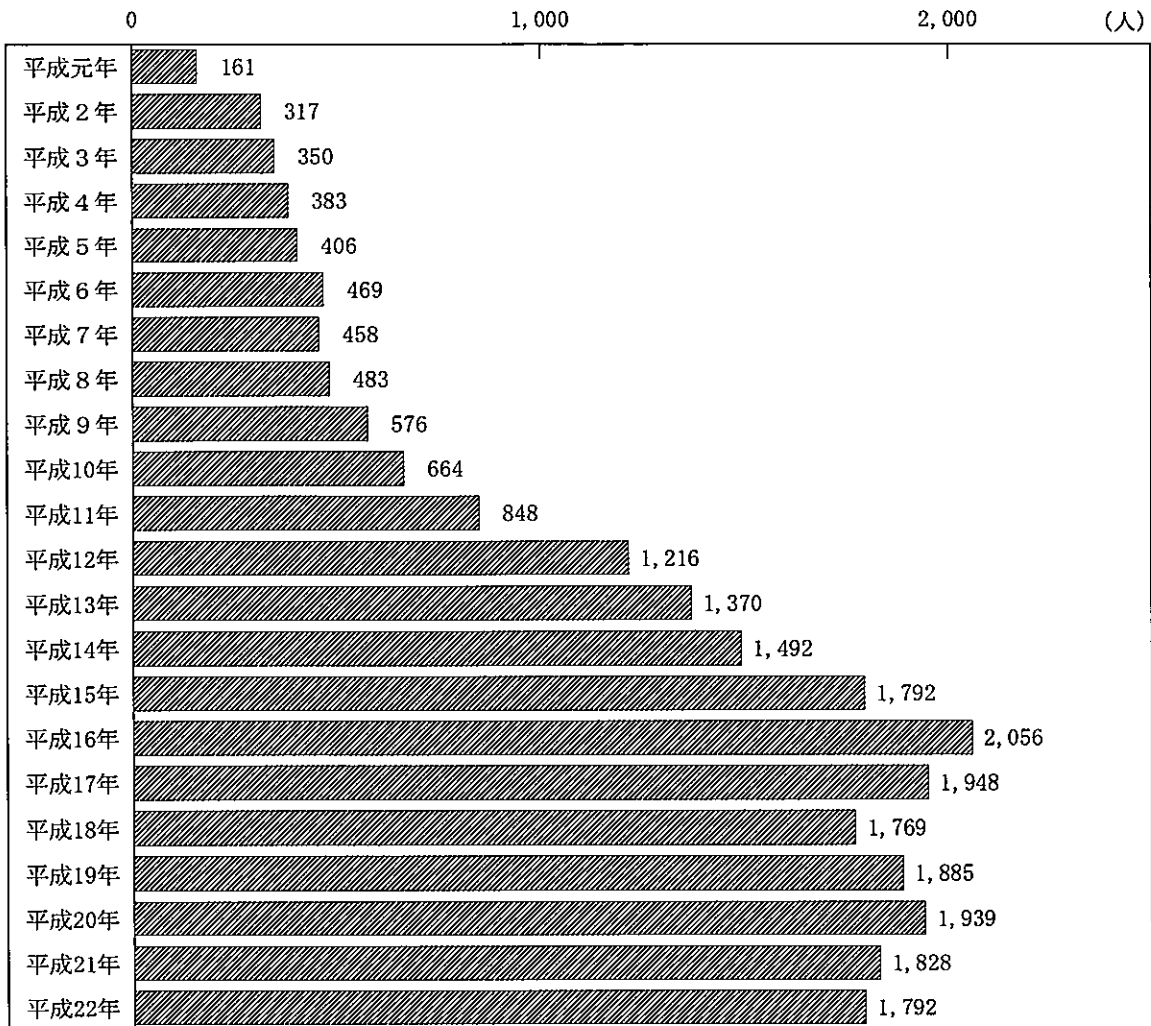


資料：滋賀県商工観光労働部観光交流局「県内外国人登録者数」調べを基に当協会で作成

(2) フィリピン人登録者数の推移

平成元年に161人であったフィリピン人登録者は、平成22年には11倍以上の1,792人に増加しています。最も多かったのは平成16年の2,056人です

図3-3 フィリピン人登録者数の推移 (各年12月末現在)



資料：滋賀県商工観光労働部国際課・観光交流局「県内外国人登録者数」調べを基に当協会で作成

(3) 外国人登録者数の比率が高い県内市町

表3-1は、外国人登録者数の比率が総人口の2%以上を占めている県内市町です。最も高いのが湖南省(4.24%)、次いで愛荘町(3.92%)、長浜市(2.95%)などとなっています。ここに掲げた5市町は、ブラジル人が最も多くなっています。なお、滋賀県全体では1.87%となっており、県民54人に1人が外国人ということになります。

表3-1 外国人登録者数の比率が2%以上の市町(平成22年12月末現在)

市町名	外国人登録者数	総人口	外国人比率	上位3国籍
湖南省	2,347人	55,373人	4.24%	ブラジル1,255人 韓国・朝鮮361人 ペルー314人
愛荘町	810人	20,670人	3.92%	ブラジル554人 中国73人 韓国・朝鮮62人
長浜市	3,707人	125,738人	2.95%	ブラジル2,242人 中国497人 ペルー305人
甲賀市	2,678人	94,679人	2.83%	ブラジル1,245人 中国461人 ペルー、韓国・朝鮮310人
東近江市	3,206人	117,521人	2.73%	ブラジル1,837人 中国435人 韓国・朝鮮289人
県全体	26,471人	1,417,391人	1.87%	ブラジル9,752人 韓国・朝鮮5,595人 中国4,995人

資料：滋賀県商工観光労働部観光交流局の調査に基づき当協会で作成

(4) フィリピン人登録者数が多い県内市町

表3-2は、フィリピン人登録者数が100人以上いる県内市町です。フィリピン人登録者が100人以上いる県内市町は5市であり、最も多いのが彦根市(335人)、次いで東近江市(269人)、甲賀市(208人)などとなっています。

表3-2 フィリピン人登録者数が100人以上の県内市町(平成22年12月末現在)

市町名	外国人登録者数	フィリピン人登録者数
彦根市	2,054人	335人
東近江市	3,206人	269人
甲賀市	2,678人	208人
大津市	4,204人	185人
長浜市	3,707人	179人
県全体	26,471人	1,792人

資料：滋賀県商工観光労働部観光交流局の調査に基づき当協会で作成

2 調査結果から

本項における率は、無回答を除いて計算しています。

(1) 調査対象者の属性

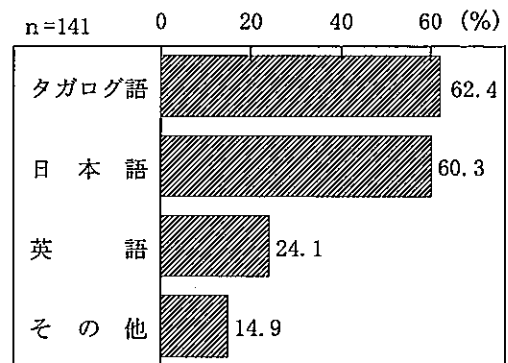
- 性別は、男性が31.4%、女性が68.6%です。(6頁)
- 年齢は、40歳未満が69.9%、40歳以上が30.1%であり、平均年齢は34.5歳です。(6頁)
- 居住市町は、彦根市(34.1%)、甲賀市(13.8%)、東近江市(13.8%)、大津市(10.1%)、草津市(9.4%)が高くなっています。(7頁)
- 国籍は、フィリピンが98.5%を占めています。(8頁)
- 出身地域は、マニラ首都圏を含めたルソン諸島が61.9%を占めています。(8頁)
- 最初の来日時期は、5～10年前が37.6%、10年以上前が30.5%であり、5年以上前が68.1%を占めています。(9頁)
- 日本の在留期間は、5～10年が36.4%、10年以上が29.3%となっており、5年以上が65.7%を占めています。(10頁)
- 滋賀県の在留期間は、5～10年が30.9%、10年以上が21.6%となっており、5年以上が52.5%です。(11頁)
- 在留資格は、永住者(37.4%)、日本人の配偶者等(28.8%)、定住者(17.3%)などです。(12～13頁)
- 最終学歴は、高校卒業(46.1%)と大学卒業(45.4%)で9割以上を占めています。(14頁)
- 配偶者がいる人は75.9%です。配偶者は、フィリピン人が54.2%、日本人が43.9%、その他が1.9%です。(15～16頁)
- 同居人数の平均は4.23人です。(17～18頁)
- 子どもと同居している人が80人、別居している人が34人います。(19～22頁)

(2) 言葉・交流

① 日常使用している言葉

日常使用している言葉は、タガログ語 (62.4%)、日本語 (60.3%)、英語 (24.1%) などとなっています。率の合計が161.7%になるので、5割以上の方が複数の言葉を使用していると推察されます。しかし、タガログ語のみが27.0% (38人)、ビサヤ語のみが11.3% (16人) います (23頁)。

図3-4 日常使用している言葉



② 日本語を話せるか

日本語で「日常会話ができる」「スピーチや討論ができる」「同時通訳や会議通訳ができる」の合計は40.6%です (図3-5)。

図3-6により就労形態別にみると、正規の職員・従業員やパート・アルバイトと比較して、派遣社員の日本語の会話能力が劣っていることがわかります。

図3-5 日本語を話せるか

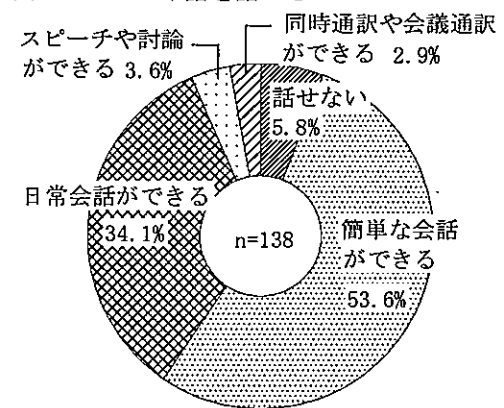
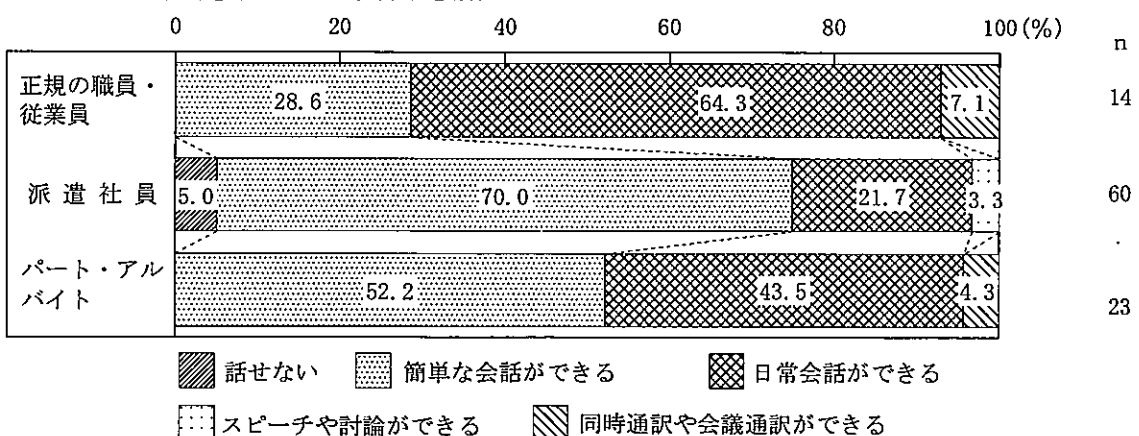


図3-6 日本語を話せるか (就労形態別)



③ 日本語が読めるか

日本語は「全く読めない」が29.3%、「漢字も読める」が11.4%です(図3-7)。

図3-8により就労形態別にみると、派遣社員は「全く読めない」が最も高く、「漢字も読める」が最も低くなっています。正規の職員・従業員でも21.4%が「全く読めない」と答えていることも驚きですが、派遣社員の日本語の読める率の低さは際立っています。

図3-7 日本語が読めるか

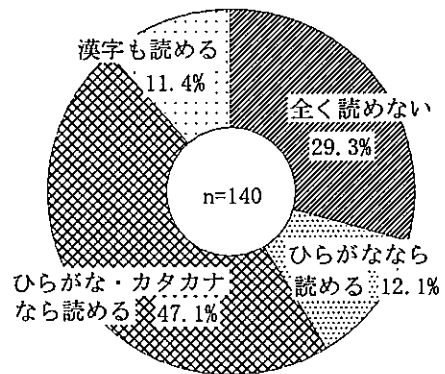
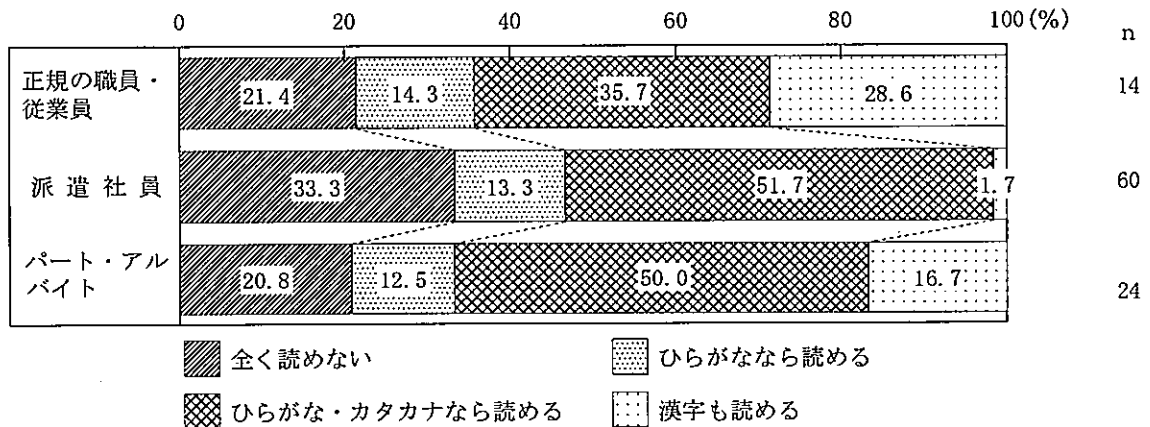


図3-8 日本語が読めるか(就労形態別)



④ 日本人の友だちがいるか

日本人の友だちは「いる」が87.0%、「いない」が13.0%です(図3-9)。

図3-10により日本語の会話能力別にみると、日本語の会話能力が高いほど、日本人の友だちがいるという結果になっています。

就労形態別にみると、正規の職員・従業員の「いる」が100%なのに対し、派遣社員およびパート・アルバイトは、それぞれ85.2%、87.0%となっています(図3-11)。

図3-9 日本人の友だちがいるか

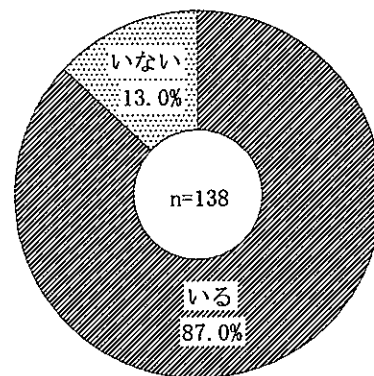


図3-10 日本人の友だちがいるか（日本語の会話能力別）

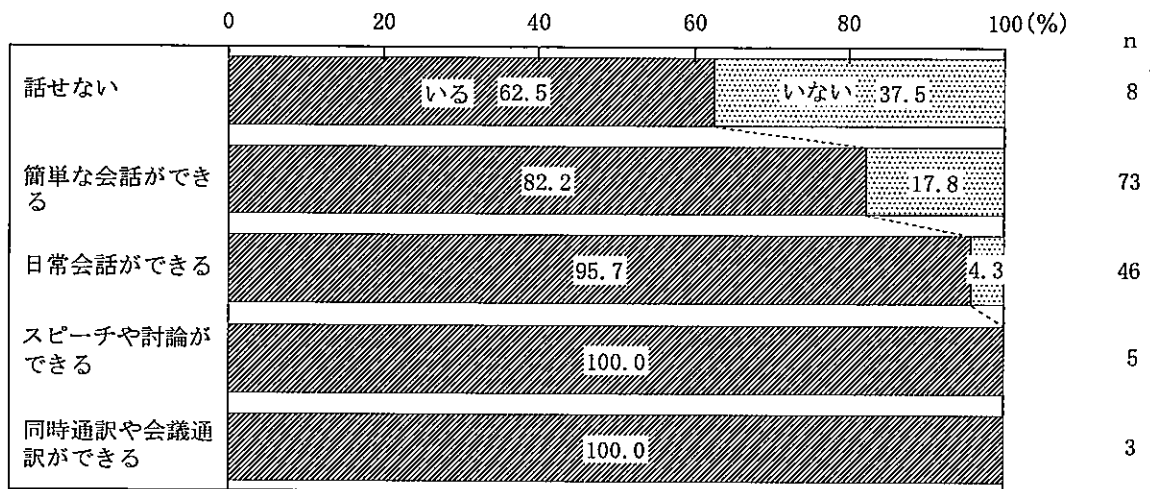
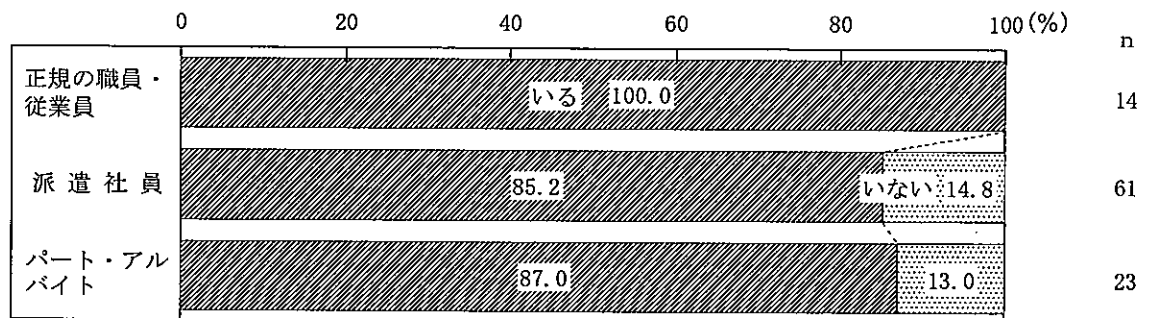


図3-11 日本人の友だちがいるか（就労形態別）

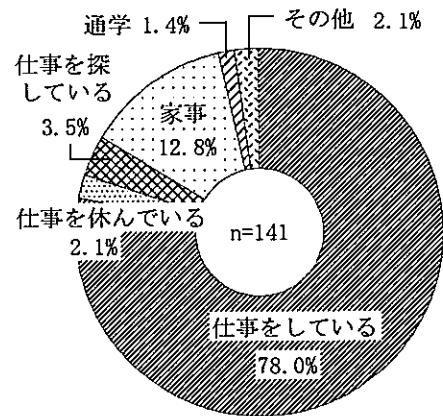


(3) 就労と今後

① 就労状況

「仕事をしている」が78.0%と最も高く、次いで「家事」12.8%となっており、他の選択肢は4%以下です。「仕事を探している」という失業者は3.5%と低率になっています。

図3-12 就労状況

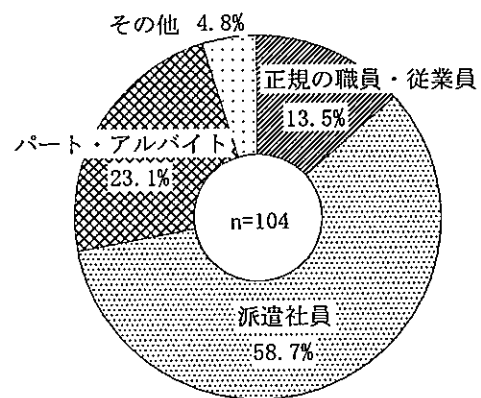


② 就労形態と仕事の内容

仕事をしている人の就労形態は、「派遣社員」(58.7%)が最も高く、次いで「パート・アルバイト」(23.1%)、「正規の職員・従業員」(13.5%)となっています(図3-13)。

仕事の内容は「工場勤務」が4分の3を超えており、他は「興業(歌手・ダンサー・演奏家等)」「英語教師」「ビルメンテナンス・清掃」「介護」などです(29頁)。

図3-13 就労形態



③ 10月の収入

収入のある人の10月1か月分の収入は、「15～20万円」(35.1%)が最も高く、次いで「10～15万円」(27.7%)、「10万円以下」(23.4%)などとなっており、15万円未満が51.1%、15万円以上が48.9%です(図3-14)。

図3-15は、職業別にみた10月の平均収入です。調査数は少ないですが、ある程度の能力を必要とする「英語教師」や「エンジニア」は高額になっています。

図3-16は日本語の会話能力別にみた10月の平均収入、図3-17は日本語の読み能力別にみた10月の平均収入です。この2つの図でみる限り、日本語の会話能力や読み能力と収入との連関を見いだすことができません。

図3-14 10月の収入

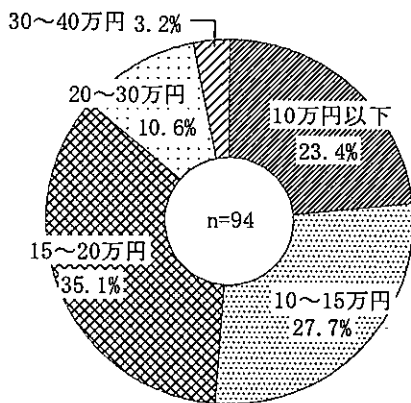


図3-15 10月の平均収入(職業別)

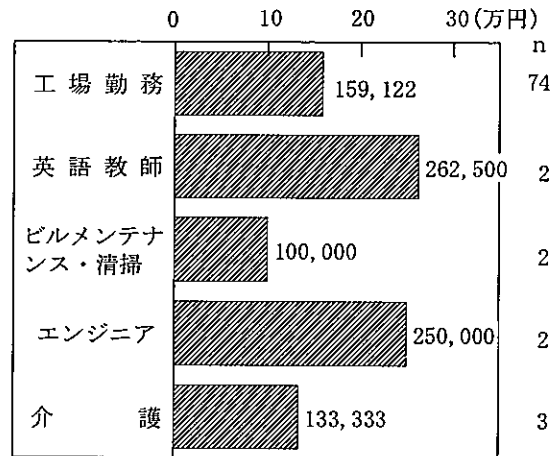


図3-16 10月の平均収入(日本語の会話能力別)

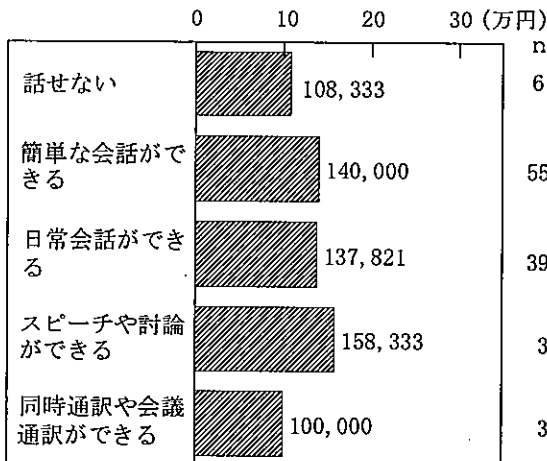
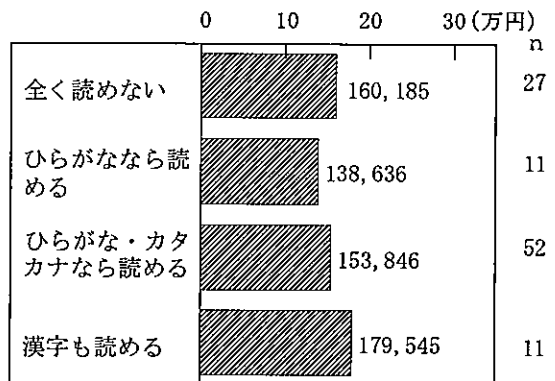


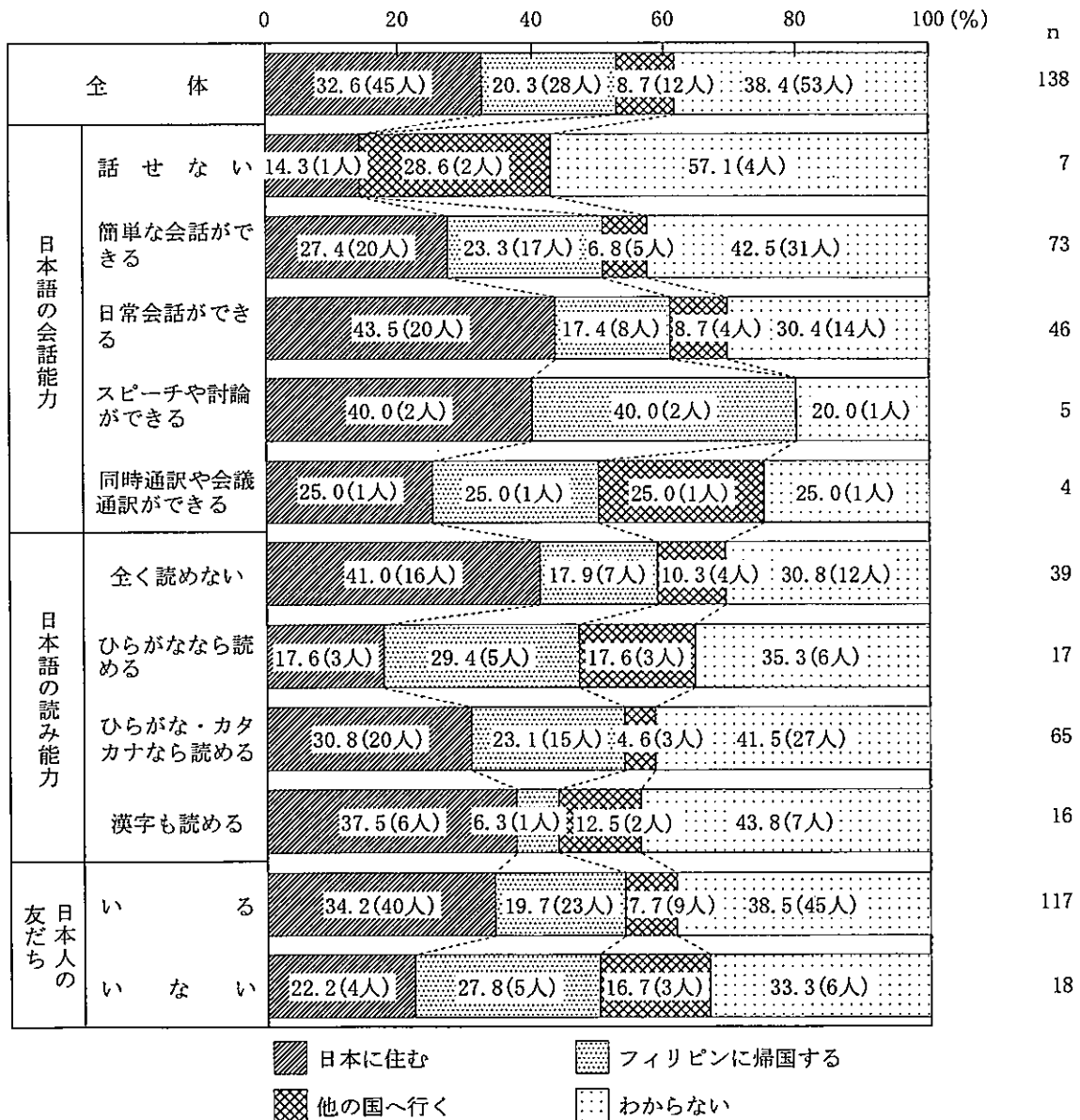
図3-17 10月の平均収入(日本語の読み能力別)



④ 将来の予定

将来の予定は、「わからない」(38.4%)が最も高く、次いで「日本に住む」(32.6%)、「フィリピンに帰国する」(20.3%)などとなっています。「わからない」を除いて計算すると、「日本に住む」が52.9%、「フィリピンに帰国する」が32.9%となり、「日本に住む」が過半数を占めています。「日本に住む」と答えたうち、日本語を話せない人が1人、日本語が全く読めない人が16人、日本人の友だちがいない人が4人います。これらの人たちが日本に住み続けるには、近隣とのコミュニケーションが図れないことや行政サービスの利用、住民としての義務の履行に必要な情報が得られないなどの困難が予測されることから、多言語での情報提供や日本語の習得が重要と考えられます。

図3-18 将来の予定



(4) 情報

① 情報入手媒体

情報入手媒体は、「パソコンでのインターネット」(66.4%)、「テレビ」(52.9%)および「友人等を通じて」(25.7%)が高く、「新聞」(7.9%)や「雑誌」(2.1%)は低率でした(33頁)。この結果は、調査対象者の日本語の読み能力と連動し、日本語情報の活用が低いためであることや、他の外国人住民と同様に日本人以上にITを活用すること、とりわけ母国語で発信するコミュニティー情報を利用していることが予測されます。

② 必要な情報

必要な情報としては、「仕事」(43.5%)、「医療」(37.4%)、「教育」(36.6%)など、普通の生活に欠くことのできないものが高い率を示しています(34頁)。

③ 当協会発行(隔月)の外国人向け情報紙「みみタロウ」

「みみタロウ」は、「知らない」が66.0%もあり、「読んでいる」(15.6%)と「名前は知っている」(18.4%)は低率でした(36頁)。しかし、「みみタロウ」を送ってほしいと答えた人が79.4%もありました(37頁)。

23頁の日常使用している言葉において、タガログ語のみが38人、ビサヤ語のみが16人いました。「みみタロウ」は、日本語、英語、ポルトガル語、スペイン語、中国語(簡体字)、中国語(繁体字)およびハングルの7か国語で発行していますが、タガログ語やビサヤ語では発行していません。

3 おわりに

(1) フィリピン人の出稼ぎ労働者

平成21年現在のわが国の外国人登録者は約219万人、うちフィリピン人は21万人でした。⁽¹⁾ フィリピンは毎年100万人を労働者として世界各地へ送り出し、統計上800万人以上が海外で就労するか、居住するかしています。また、統計に含まれない不法就労者をカウントすると、実数はフィリピンの人口の約10%である1,000万人を超えるともみられています。⁽²⁾

平成16年7月、イラクでフィリピン人のトラック運転手が武装勢力に誘拐されました。釈放の条件は、フィリピン軍のイラクからの即時撤退でした。アロヨ大統領はこれに応じて、フィリピン軍をイラクから撤退させ、無事にフィリピン人が解放されました。アロヨ大統領は、アメリカのイラク派兵には真っ先に支持を表明し、フィリピン部隊も人道支援に出向いていました。それにもかかわらず、アメリカと一心同体のフィリピンがテロに屈したのは、700万人を超える海外労働者のためだと、アロヨ大統領は強調しました。「彼らが幸福であることがフィリピンの国益だ」と記者会見で述べました。フィリピンでは、出稼ぎ労働者が国の財政を支えているのです。⁽³⁾

(2) 言葉の問題

調査対象者の将来の予定は、「日本に住む」(32.6%)が「フィリピンに帰国する」(20.3%)を大きく上回っています。しかし、「日本に住む」としている人の中には、日本語が話せない人、日本語が全く読めない人、日本人の友だちがいない人がいます(53頁)。これらの人たちが日本に住み続けることには、困難が伴います。

日本語が話せない、日本語が読めない、日本人の友だちがいない人の多くは派遣社員です(48～50頁)。派遣社員は、派遣会社や業務請負会社の斡旋によって、製造業を中心とする企業で働いています。多くの派遣会社や業務請負会社は、仕事の斡旋以外に、住宅の提供(社宅)、就労先までの送迎、各種手続きの代行、母国語による生活支援などを行っています。⁽⁴⁾ つまり、派遣会社や業務請負会社に属していれば、母国語だけでも日々の生活を送ることができるのです。しかし、平成20年に起きた経済不況のようなことがあって、派遣会社や業務請負会社から離れると、その日から言葉の壁に立ちふさがれます。

(3) これからの支援に向けて

フィリピン人が日頃の生活の中で困っていることとしては、仕事や低所得、住居、日本の習慣などがあげられています。

今回の調査実施に至った経緯は、滋賀県内での外国人への支援や取組み等の対象が県内の半数を占める南米出身者対象となっていることが多いことから、もう少し多様な国の方への支援ができるようニーズを把握したいということからでした。

当協会が毎年実施している多言語での進路ガイダンスも7年目になりましたが、初回から毎年フィリピンの家族が参加してくれています。また、外国人向け情報紙「みみタロウ」についても、タガログ語での発行の要望も度々聞いています。平成22年6月に当協会が発行した機関誌「L A K E」79号で県内の外国語資料について照会したところ、ポルトガル語、英語、スペイン語、中国語の「生活に関する外国語による資料」については行政で発行されていましたが、タガログ語での発行はありませんでした。通訳・翻訳については、人材や予算の問題がありますが、タガログ語での情報提供にも努める必要があると考えられます。

○タガログ語での情報提供

「日常使用している言葉」に関する調査結果では、日本語が「60.3%」、タガログ語が「62.4%」に対して、英語は「24.1%」でした。フィリピンの方には英語が通じると思われていますが、この結果からも英語を日常的に使用している方はそう多くはありません。実際に調査現場においても英語では全部を理解するのが大変なので、タガログ語の翻訳した情報が欲しいという声も多く聞きました。先にも述べましたが、可能であればタガログ語の情報提供、特に詳細な説明文書等になるとタガログ語での情報提供が望ましいと考えられます。

○派遣会社・業務請負会社に対して

技能実習生・研修生等でも来日が増えつつありますが、地域社会との接点がないこともあり、日本語力があまり高くない結果となりました。派遣会社・業務請負会社には、社員である外国人労働者の福祉の向上のために、1日30分程度の日本語の学習と日本人との交流を義務づけるなどの方策が望まれます。

○日本語学習および学習機会の提供について

在住が10年から20年と定住の傾向が多くみられた中で、今回課題に感じた一つには日本語の「読み・書き」についてでした。調査からも、滞在の年数が経るのに従って、「話す」ことについては不自由なくコミュニケーションが図れているのが分かりましたが、

漢字仮名交じりの日本語の「読み」については、「できる」という人が1割程度しかいませんでした。実際に調査の現場でも「学校からの手紙が読めない」と多くの方が流暢な日本語で訴えておられたのに驚きを感じました。「話す」ことは日本社会に入って暮らしている人にとって自然に習得できるのですが、「読むこと」ましてや「書くこと」になると継続的な学習が必要となります。現在の政府の外国人受け入れに関する施策は、ようやく「生活者としての外国人」としての受け入れの対策を協議しはじめたばかりで、日本語学習機会の提供については政策的なシステムとしては何も構築されていないのが現状です。「読み書き」の日本語能力は、外国人が日本社会に早くとけ込むことを促進するだけでなく、一住民としての権利の享受と義務の履行にもつながることから大変重要と考えられます。地域では、ボランティアの方を中心とした日本語教室が開催されています。ボランティアに頼っている状況から脱して、早急な国による日本語学習システムの構築が望まれます。

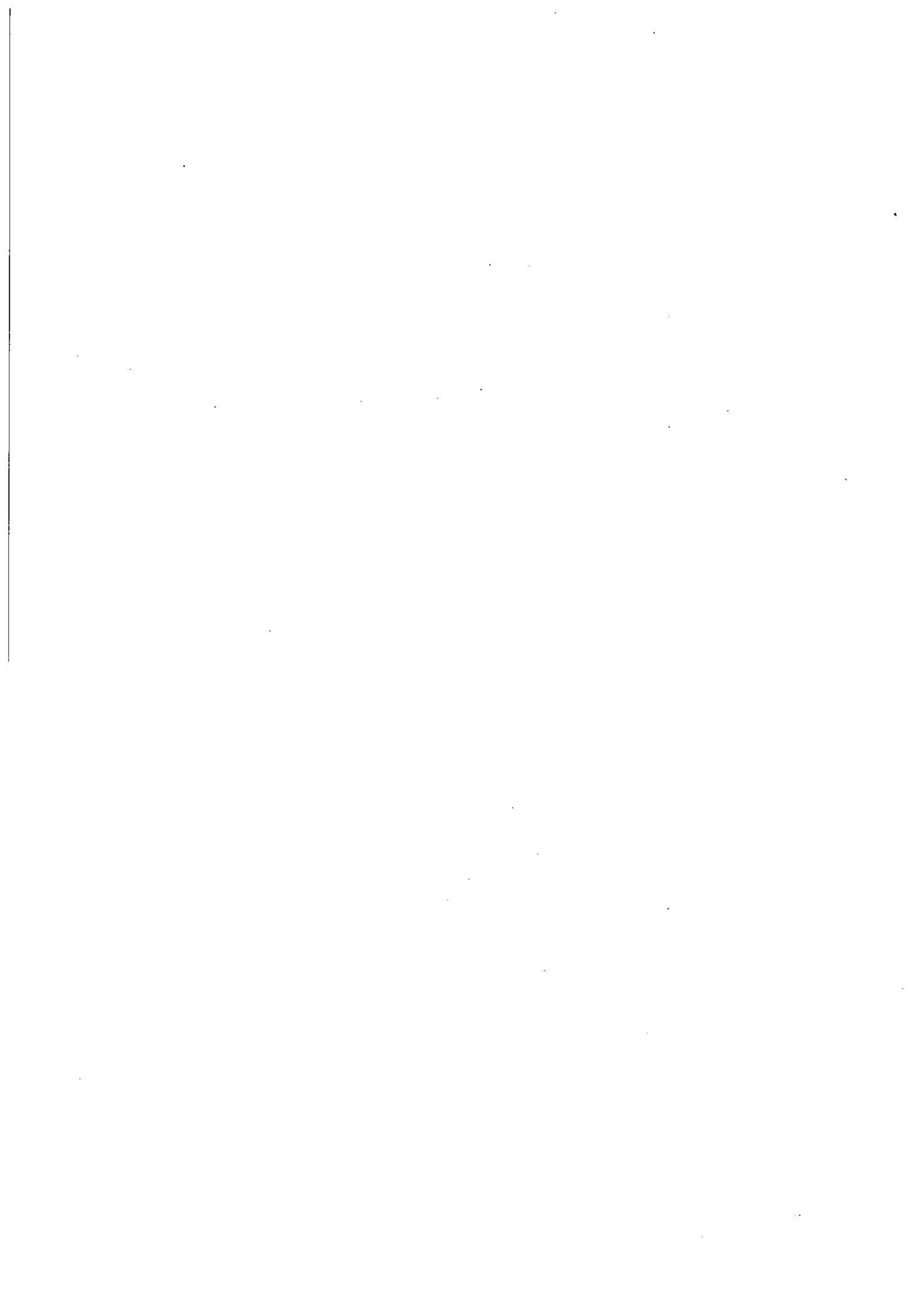
当協会としても、地域の日本語教室の開催情報の提供や相談対応の充実に努めます。

○おわりに

「日本人の友だちがいるか」という設問に87%もの方が「いる」と回答しており、日本社会とのつながりを多くの方が持っていることが分かりました。日本社会での活躍の機会を増やすことが地域の活性化と地域の多文化共生社会の推進につながります。

引用・参考文献

- (1) 法務省「登録外国人統計（2009年）」 2010年7月7日公表
- (2) 「フィリピンから見た日本」 <http://philnews.seesaa.net/article/121946184.html>
- (3) 「産経新聞」 平成16年7月21日
- (4) 松尾隆司「南米出身日系人労働者の日本における生活システムについて」 滋賀県社会福祉協議会『外国籍住民と地域社会とのつながりに関する調査研究報告書』（2009年3月）



第4章

調 査 票

1 日本語

アンケートご協力をお願い

私たち滋賀県国際協会は、滋賀県内に住む外国籍の方々が安心して日々の生活を送っていただけるよう支援する財団法人です。このアンケートは、今後フィリピンの方への情報提供や支援の充実を図ることを目的に滋賀県内に住むフィリピンの方の日頃の生活状況などを調査するものです。

このアンケートに協力した方が不利益を被ることは一切ありません。回答は、調査以外の目的に使用することなく、情報の管理は厳重に行い、秘密は厳守します。

財団法人 滋賀県国際協会

お願い：この調査票は16歳以上の方が記入してください。また、1世帯2人まででお願いします。

問1 あなたのフィリピンでの出身地域に○をつけてください。

- | | |
|----------|-----------|
| 1 マニラ首都圏 | 2 ルソン諸島 |
| 3 ビサヤ諸島 | 3 ミンダナオ諸島 |

問2 最初に日本に来たのはいつですか？ _____年 _____月

問3 日本で暮らしてどれくらいになりますか？ 約 _____年

問4 滋賀県に住み始めたのはいつからですか？ _____年 _____月

問5 あなたの現在の在留資格は、次のどれですか？

- | | | | |
|------------|-------|-------|-------------|
| 1 日本人の配偶者等 | 2 定住者 | 3 永住者 | 4 研修生・技能実習生 |
| 5 帰化している | 6 その他 | () | |

問6 最終学歴は次のどれですか？

- | | | | |
|---------|--------|--------|-------|
| 1 小学校卒業 | 2 高校卒業 | 3 大学卒業 | 4 その他 |
|---------|--------|--------|-------|

問7 配偶者の有無

- | | | | |
|---------|------|------|------|
| 1 配偶者有り | 2 未婚 | 3 死別 | 4 離別 |
|---------|------|------|------|



問8 配偶者について

- | | |
|-----------------------------------|--------------|
| 1 フィリピン人の配偶者がいる | 2 日本人の配偶者がいる |
| 3 フィリピン人、日本人以外の配偶者がいる (国名: _____) | |

問9 一緒に住んでいる人は誰ですか？

- 人数 ()人 *回答者を含む。
- 一緒に住んでいる人に全て○をつけてください。

- | | | | |
|-----------------|--------------------|------------|----------|
| 1 配偶者 | 2 就学前の子ども ()人 | | |
| 3 小学生の子ども ()人 | 4 中学生の子ども ()人 | | |
| 5 高校生の子どもの ()人 | 6 子ども (2～5以外) ()人 | | |
| 7 父親 | 8 母親 | 9 義父 | 10 義母 |
| 11 祖父・祖母 | 12 孫 | 13 友人 | 14 職場の同僚 |
| 15 おじ・おば | 16 恋人 | 17 その他 () | |

問10 あなたと別の場所に住んでいる子どもはいますか？

- | | | |
|--------------------------------------------------|--------------------------|-------|
| 1 いる | → どこに住んでいますか？ (国名 _____) | 2 いない |
| ↳ ()人=子ども (_____歳 _____歳 _____歳 _____歳 _____歳) | | |

問11 あなたが日常使っている言葉は何語ですか？ (複数回答可)

- | | | | |
|---------|-------|------|-----------------|
| 1 タガログ語 | 2 日本語 | 3 英語 | 4 その他 (_____語) |
|---------|-------|------|-----------------|

問12 日本語を話せますか？

- | | | |
|---------------|-----------------|------------|
| 1 話せない | 2 簡単な会話ができる | 3 日常会話ができる |
| 4 スピーチや討論ができる | 5 同時通訳や会議通訳ができる | |

*日本語能力試験に合格している場合は○をつけてください。(1級、2級、3級、4級)

問13 日本語が読めますか？

- | | |
|------------------|-------------|
| 1 全く読めない | 2 ひらがななら読める |
| 3 ひらがな・カタカナなら読める | 4 漢字も読める |

問14 日本人の友だちはいますか？

- | | |
|------|-------|
| 1 いる | 2 いない |
|------|-------|

問15 現在仕事をしていますか？

- | | | |
|-----------|------------|------------|
| 1 仕事をしている | 2 仕事を休んでいる | 3 仕事を探している |
| 4 家事 | 5 通学 | 6 その他 |

→ 問16 仕事をしている人の就労形態は？

- | | | | |
|-------------|--------|-------------|--------|
| 1 正規の職員・従業員 | 2 派遣社員 | 3 パート・アルバイト | 4 自営業主 |
| 5 家族従業者 | 6 内職 | 7 その他 () | |

→ 問17 現在の仕事の内容は何ですか？

- | | | |
|---------------------|----------------|---------|
| 1 工場勤務 | 2 ウエイター・ウエイトレス | 3 店の販売員 |
| 4 興業 (歌手・ダンサー・演奏家等) | 5 英語教師 | 6 通訳 |
| 7 ビルメンテナンス/清掃 | 8 土木建設業 | 9 小売業 |
| 10 エンジニア | 11 介護 | 12 医療関係 |
| 14 その他 () | | 13 農業 |

問18 10月のあなたの収入は？

- | | | |
|---------------------|---------------------|---------------------|
| 1 なし | 2 100,000円以下 | 3 100,000円～150,000円 |
| 4 150,000円～200,000円 | 5 200,000円～300,000円 | |
| 6 300,000円～400,000円 | 7 400,000円～500,000円 | |
| 8 500,000円以上 | 9 わからない | |

問19 将来の予定は？

- | | | | |
|---------|--------------|----------|---------|
| 1 日本に住む | 2 フィリピンに帰国する | 3 他の国へ行く | 4 わからない |
|---------|--------------|----------|---------|

問20 日常の情報収集は何を利用していますか？ (上位3つまで○をつけてください。)

- | | | |
|-------------------|-----------------|------------------------|
| 1 新聞 (新聞名: _____) | | |
| 2 雑誌 (雑誌名: _____) | | |
| 3 フリーペーパー | 4 ラジオ | 5 テレビ (日本の放送、フィリピンの放送) |
| 6 携帯電話でのインターネット | 7 パソコンでのインターネット | |
| 8 友人等を通じて | 9 その他 () | |

問21 どんな情報が必要ですか？ (上位5つまで○をつけてください。)

- | | | | | |
|---------------|-----------|----------|-------------|------------|
| 1 医療 | 2 福祉 | 3 子育て | 4 教育 | 5 買い物・レジャー |
| 6 外食 (レストラン等) | 7 交通機関・旅行 | 8 住宅 | 9 仕事 | |
| 10 ビジネス | 11 通訳 | 12 日本語教室 | 13 滋賀県の生活情報 | |
| 14 日本・滋賀県の制度 | 15 在留資格関連 | | | |
| 16 その他 () | | | | |

問22 外国人向け情報紙「みみタロウ」は知っていますか？

- | | | |
|---------|------------|--------|
| 1 読んでいる | 2 名前は知っている | 3 知らない |
|---------|------------|--------|

問23 外国人向け情報紙「みみタロウ」を送ってほしいですか？

1 はい <英語版・日本語（ルビ付き）版> 2 いいえ

* 「1 はい」と答えた方には、記載していただいた住所に直接お送りします。

問24 現在の生活（滋賀県の生活）での楽しみは何ですか？（例：旅行、趣味<読書>等）

[]

問25 現在の生活で困っていることがありましたら記入してください。

[]

問26 意見や要望があれば記入してください。

[]

あなたの性別・年齢・住所・名前・国籍を記入してください。

○ 年齢（ ）歳

○ 性別 （ 男 女 ）

住 所	_____
名 前	_____
国 籍	（ ）

ありがとうございました。

2 タガログ語

Panawagan sa Pakikiisa sa Pagsagot sa Mga Tanong

Ang Shiga Intercultural Association for Globalization ay isang grupong tumutulong sa mga dayuhang nakatira sa Prepekturang Shiga.

Ang layunin ng pagsusuring ito ay upang pag-aralan ang mga pang-araw-araw na pamumuhay ng mga Pilipinong nakatira sa Shiga Prefecture upang lalong mapaunlad ang pagbibigay ng impormasyon at tulong sa hinaharap.

Hindi magdudulot ng masama ang pagsusuring ito sa mga taong lalahok sa pagsagot.

Ang mga sagot ninyo ay gagamitin lamang para sa pag-aaral na ito, at ang mga iyon ay itatago nang maayos at hindi ilalabas para sa iba pang dahilan.

Shiga Intercultural Association for Globalization

* PAUNAWA: Ang survey na ito ay isinasagawa para sa mga Filipino na naninirahan sa Shiga Prefecture na may edad na 16 taong gulang pataas. Maaari pong sumagot ang hanggang sa dalawang miyembro ng isang household.

1. Saan kayo ipinanganak sa Pilipinas? (Pakibilugan ang numero.)
1. Metro Manila
 2. Luzon maliban sa Metro Manila
 3. Visayas
 4. Mindanao
2. Kailan kayo unang dumating sa Japan? _____ (Buwan/ month) _____ (Taon/ year)
3. Gaano na kayo katagal nakatira sa Japan? Mga/ About _____ taon/ year
4. Kailan kayo unang nanirahan sa Shiga Prefecture?
_____ (Buwan/ month) _____ (Taon/ year)
5. Ano ang status ng inyong VISA sa kasulukuyan?
1. Asawa ng Hapon o iba pa/ Spouse or Child of Japanese (Haiguusha)
 2. Residente (Teijuusha)
 3. Permanent resident (Eijuusha)
 4. Trainee
 5. Naturalized Japanese Citizenship (Kika)
 6. Iba (_____)
6. Ano na inyong pinangtapusan?
1. Elementary
 2. High School
 3. University
 4. Iba
7. Ano ang inyong Civil Status?
1. May asawa/ Married
 2. Single
 3. Widowed
 4. Hiwalay / Divorced
8. Tungkol sa asawa inyong asawa.
1. Pilipino
 2. Japanese
 3. Iba pang nasyonalidad maliban sa Filipino / Japanese
(Nasyonalidad: _____)
9. Sinu-sino ang kasama mo / ninyo sa bahay?
- Ilang tao? (_____) katao **Kabilang ang tagasagot.*
 - Pakibilugan kung alin sa mga sumusunod na miyembro ang kasama sa bahay.
1. Asawa/ Spouse
 2. Batang di pa nag-aaral Ilan? (_____)katao
 3. Elementary Ilan? (_____)katao
 4. Junior High Ilan? (_____)katao
 5. Senior High School Ilan? (_____)katao
 6. Bata (Maliban sa blg. 2- blg. 5) Ilan? (_____)katao
 7. Tatay
 8. Nanay
 9. Biyenang lalaki
 10. Biyenang babae
 11. Lolo, Lola
 12. Apo
 13. Kaibigan
 14. Kasama sa trabaho
 15. Tito, Tita
 16. Kasintahan
 17. Iba (_____)
10. Mayroon ba kayong anak na nakahiwalay sa inyo ng nakatirang?
1. Mayroon ? Saan nakatira? (Bansa/ Country _____)
 2. Wala
- _____ Ilan? (_____)katao = Mga edad?
(_____ taon, _____ taon, _____ taon, _____ taon, _____ taon, _____)

11. Ano ba ang wikang ginagamit ninyo araw-araw. (Pakibilugan lahat)
 1. Tagalog 2. Wikang Hapon 3. Ingles 4. Iba ()
12. Marunong ba kayong magsalita ng wikang Hapon?
 1. Hindi 2. Marunong sa mga madaling salita
 3. May kakayahang pang-araw-araw na salita
 4. May kakayahang mag-speech o mag-debate.
 5. May kakayahang sa conferenrence interpreting.
 * Kung kayo ay nakapasa sa Japanese Language Proficiency Test, pakibilugan ang inyong grado.
 (N1, N2, N3, N4)
13. Nakakapagbasa ba kayo ng wikang Hapon?
 1. Hindi 2. May kakayahang magbasa ng Hiragana
 3. May kakayahang magbasa ng Hiragana at Katakana
 4. May kakayahang magbasa ng Kanji
14. May kaibigan ba kayong Hapon?
 1. Mayroon 2. Wala
15. Kayo ba ay may trabaho sa kasalukuyan?
 1. Oo. 2. Naka-leave 3. Naghahanap 4. Trabaho sa bahay
 5. Nag-aaral 6. Iba/ Others ()
- 16. Anong klase ang katayuan ng inyong pinapasukang trabaho?
 1. Direct fulltime na empleyado 2. Contract Worker ("Haken")
 3. Part time, Arubaito 4. May-ari ng negosyo
 5. Tumutulong sa negosyo ng pamilya/ Family business employee
 6. Side job 7. Iba ()
- 17. Ano ang inyong trabaho sa kasalukuyan?
 1. Factory worker 2. Waiter/ Waitress 3. Salesperson
 4. Entertainer (Mang-aawit(Singer), Mananayaw(Dancer), Musikero(Musician)
 5. English Teacher 6. Tagapagsalin/ Interpreter
 7. Building maintenance, Cleaning
 8. Construction Worker 9. Tindahan/ Retail 10. Engineer
 11. Caregiver 12. Pangmedikong trabaho
 13. Magsasaka/ Agriculture 14. Iba ()
18. Magkano ang iyong kinita sa buwan ng Oktubre?
 1. Wala 2. ~¥100,000 3. ¥100,000~¥150,000
 4. ¥150,000~¥200,000 5. ¥200,000~¥300,000
 6. ¥300,000~¥400,000 7. ¥400,000~¥500,000
 8. above ¥500,000 9. Hindi alam
19. Ano ang pinaplano sa hinaharap?
 1. Tumira sa Japan 2. Uuwi sa Pilipinas
 3. Pupunta sa ibang bansa 4. Hindi alam

20. Saan kayo nakakakuha ng impormasyon araw-araw? (Paki sulat hanggang tatlo)
1. Dyaryo/ Newspaper (Pangalan/ Name: _____)
 2. May bayao na Magazin (Pangalan/ Name: _____)
 3. Libreng Magazine 4. Radyo 5. TV (Sa Hapon, Pilipinas)
 6. Internet sa pamamagitan ng cellphone
 7. Internet sa pamamagitan ng computer
 8. Sa kaibigan 9. Iba (_____)
21. Ano ang impormasyon na kinakailangan ninyo? (Pakisulat hanggang lima)
1. Medikal 2. Welfare 3. Pag-aalaga sa bata
 4. Edukasyon 5. Pamimili, Paglilibang 6. Kainan
 7. Transportation, Pagbibiyahen 8. Bahay, Tirahan 9. Trabaho
 10. Pagnenegosyo/ Business 11. Pagsasalin
 12. Japanese Schools 13. Impormasyon sa pamumuhay sa Prepektura Shiga
 14. Mga sistema ng Japan o Prepektura Shiga 15. Visa
 16. Iba (_____)
22. Alam ba ninyo ang "Mimitaro" na pandayuhang information Magazine?
1. Alam at Binabasa 2. Alam ko 3. Hindi ko alam
23. Nais ba ninyo na padalhan kayo ng "Mimitaro" na pandayuhang information Magazine?/
1. Oo <Ingles, Wikang Hapon (na may Hiragana)>/
Yes < English version, Japanese version with kana >
 2. Hindi/ No
- * Ang mga sumagot ng "Oo" ay papadalhan nito nang deretso sa kanilang adres.*
24. Ano ba ang pinagkakalibangan ninyo sa pamumuhay ninyo ngayon sa Prepekturang Shiga? (Hal: Biyahe, hobbies katulad ng pagbabasa ng mga libro, atbp.)
- (_____)
25. Mayroon ba kayong mga problema tungkol sa pamumuhay sa kasalukuyan? Kung mayroon, mangyari lamang na isulat ito.
- (_____)
26. Mayroon ba kayong opinion o hiling na nais sabihin? Kung mayroon, mangyari lamang na isulat ito
- (_____)

Marami pong salamat sa inyong pakikiisa!

.Pakilagay ng iyong adres (tirahan), pangalan, kasarian, edad at nasyonalidad.

- Edad (Age) (_____ years old)
 Kasarian /Sex 1. lalaki (male) 2. babae (female)
 Nasyonalidad (_____)

Adres (Tirahan)/Address _____

Pangalan/ Name _____

Maraming salamat po!

在日フィリピン人実態調査事業報告書
～これからの支援に向けて～

平成23年2月発行

財団法人 滋賀県国際協会

〒520-0801

滋賀県大津市におの浜一丁目1-20 ピアザ淡海2階

TEL : 077-526-0931 FAX : 077-510-0601

URL : <http://www.s-i-a.or.jp>

本書は再生紙を使用しています。